WASON
HQ
1104
J74+
Oct. 1893
no. 355

明治廿六年十月十四日發兌

女學雜誌

第三百五十五號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

社說

室家及伉儷の天職（去るとを得ず〇合せもの〇破鏡覆水〇二極の謬見）

上毛の存娼論

日本の花嫁

兒籃

いはひ歌（第三曲）（しづ子）

理學

時間のはなし（けい子）

家政

主婦の精神過勞（しづ子）

雜錄

米國の家庭教育及女學校寄宿舍（在米國女子大學の日本女生）

德富猪一郎氏孤兒院への書狀

史傳

ヘンレー、ソモルセット夫人

時報

●皇室、皇女）●學校、教育（實業補修學校）仙臺の女學校〇工女の教育〇德島、大阪、岡山の女學）●集會（重野文學博士、女學生に告ぐ）●個人（女生徒勉勵〇女丈夫〇女子師範學校校長の弄法）黑田伯夫人）●風說（外務內佳錄〇香港廢娼論）●服裝●片々●海外●米國へ留學洋行せし女生の通信

前號目錄

社說

室家に於ける利己主義

兒籃

いわひ歌（第二曲）若松しづ子

史傳

ヘンレー、ソモルセット夫人の傳

雜錄

近代最初の女賢が經歷（荻野吟子の事。鈴木源子筆記）〇大西操山氏の新婚を祝ひて（戸川殘花）

理學

虹（けい子）

小說

春風裡（トオストイ作、不知庵主人譯）

家政

家内の貯藏法（生薑の糖藏法。茄子を生の儘に貯藏する法。松蕈を貯ふる法。）簡便なる臘乾の製造法。

女報

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社書店發賣書籍目錄

書名	著者	正價・郵税
百人一首講義	鈴木弘恭大人述	正價二拾八錢 郵税四錢
文法口授	同	正價拾二錢 郵税二錢
小公子	若松賤子譯	正價二拾八錢 郵税八錢
邦文學	松山高吉君著	正價二拾錢 無郵税
雅俗諸體 作文口授	鈴木弘恭大人述	正價二拾五錢 郵税四錢
徒然草講義	同 講述	正價八錢 郵税二錢
參考標註 徒然草抜萃	同 標註	正價武十錢 郵税四錢
參考標註 竹取物語讀本	同 著述	正價貳拾錢 郵税四錢
參考標註 土佐日記讀本	同 著述	正價二拾錢 郵税四錢
女學校用讀本 國文抄讀	同 著	一冊二十二錢 一冊郵税四錢宛
淺瀬の波	池袋清風大人著	正價三拾錢 郵税四錢
公娼可滅	島田三郎 巖本善治 同著	正價四錢 郵税二錢
廢娼演說	島田三郎 植木枝盛 同著	正價五錢 郵税二錢
正義の反響	安枝武雄君編輯	正價拾五錢 郵税二錢
日本女子讀本初歩	吉田利行君著	正價二拾四錢 郵税四錢
日本女子讀本	同 著	正價三拾六錢 郵税六錢
明治女小學躾草	松田敏足著述	正價四拾錢 郵税六錢
記事祝文 女子文例	香月恕經君著	正價二拾二錢 郵税四錢
漢文抄讀	木村熊二君編	一冊二拾四錢 一冊郵税四錢宛
婚姻論	横山雅男君著	正價十六錢 郵税四錢
産婦小兒 攝生法	船越鼎太郎君著	正價十錢 郵税二錢
母のつとめ	三島通良君著	正價五十錢 郵税六錢
西洋女禮	同 編輯	正價十二錢 無郵税
子供のはなし	同 編輯	正價五錢 郵税二錢
家政要旨	村木箴君述	正價五錢 郵税二錢
かへる	佐々木笑止郎君著	正價四錢 郵税二錢
吾黨の女子教育	巖本善治君著	正價拾錢 無郵税
元帳〆切之圖	海野力太郎譯述	正價五錢 郵税二錢
家計簿記法	藤尾錄郎君著	正價二拾錢 郵税四錢
家計簿記法例題	藤尾錄郎君著	正價拾錢 郵税二錢
束髪案内	渡邊鼎君著	正價三錢 郵税二錢
女學叢書 木村鐙子傳	巖本善治君著	正價八錢 郵税二錢
貧兒の教育	安東松治郎君著	正價六錢 郵税二錢
訓蒙繪双紙 猫と鼠	井上藤平君編	正價五錢 郵税二錢
三板 廢物利用	故近藤賢三君編	正價三十五錢 郵税四錢
昆蟲植物金石 採集法	星野愼之輔君著	正價八錢 郵税二錢

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

書名	著者	價	郵稅
植物學	寺尾熊二君著	正價十錢	郵稅二錢
著述作說 材料新誌	女學雜誌社編輯	正價三十二錢	郵稅四錢
看護婦美談	久野正香君著	正價貳拾五錢	郵稅四錢
希臘孝子 腓立比物語	櫻井明石君重譯	正價三拾五錢	郵稅六錢
日本女禮式	坪谷善四郎君著	正價五十錢	郵稅十二錢
かな習字帖	小野鋼之助君編	正價拾錢	郵稅二錢
文かかきふり	同 編	正價三拾六錢	郵稅六錢
應用植物編	星野愼之輔君	正價四拾錢	郵稅六錢
再版 基督のすがた	植村正久君著	正價四拾五錢	郵稅四錢
信仰の標準	同		郵稅共七錢
耶蘇教衝突論	久津見息忠君著	正價拾六錢	郵稅二錢
教育學講義	嚴本善治君著	正價八錢	郵稅二錢
藝者と手掛	巖谷小梅女史著	正價三錢	郵稅二錢
貞婦れ石	櫻井明石君著	正價壹錢	郵稅二錢
ウエスト女史遺訓	渡瀨かめ子通譯	定價十五錢	郵稅二錢
基督信徒のなぐさめ	内村鑑三君著	定價二十錢	郵稅二錢
婦人立志編	竹越竹千代女史編	定價二十錢	郵稅二錢
保羅之傳	松村介石君著	定價三十五錢	郵稅六錢
デビニチー	同	正價十五錢	郵稅二錢
新撰讃美歌	植村正久君編	正價八錢	郵稅二錢
新舊約全書	聖書會社出板	五十錢より	
新約全書	同 出板	拾二錢より	

六角先生御方

若みどり香水効能書

定價 大瓶 金五拾錢　中瓶 金二拾五錢　小瓶 金拾五錢

○此若みどり香水はよく頭のふけをさり髮のつやを出し毛あしを速くして毛をすなほならしむ

○此わかみどり香水は髮の薄きところにつければ日かずをへずしてよき毛を生ず

○此若みどり香水はよく毛髮の根を養ひて毛を丈夫にするもすなほにするがゆへにをれ。きれ。ぬける。となく又しらがとなると少し

○此わかみどり香水はにほひよくして髮のねばりを去り常にもちゆればあらひがみの如くにして逆上をさげ頭つうの憂なしその若緑となづくるは髮の毛のつやよくなり黑髮のみどりをなしてうるはしきと年老て若き人と異なる事なければなりもし今の世に浦島あらば玉手箱をひらきて猶悔るとならん世に多き品と同ふする事なかれ

○御婦人方は髮をほどきたるときはつむりの地へ筆或は手の掌にて塗擦尙ほ日々筆にてぬるべし男子は朝梳る時に當りて之をふりまきて塗擦すへし

發賣元 横濱市本町一丁目十三番地 明治屋

東京賣捌 神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百五十五號

明治二十六年
十月十四日發兌

社説

室家伉儷の天職

（一）去ることを得ず

或る野蠻人は、其擧けたる愛兒を殺すとあり。其の理由を尋ぬれば、現世の苦界なるが故と答ふ。蓋し、愛兒をして、痛ましき生活を經驗せしむるとの心苦しく、寧ろ之を無何有郷に旅立たせて、寂滅怡樂の幸福を得せしめんとは欲するなんめれ。其情惘れむべく、其志泣くに堪ゆ。然れど、文明の人にして、誰か、其所爲に贊同するものかあらん。現世は眞とに、苦界なり。荊棘の下に蛇わだかまり、毒水の流に狠水のむ。病苦あり、死別あり、罪業滿ち充つ。誰か、之を苦しとせざらんや。然りと雖ども、自殺して之より去らんとするは卑怯なり、薄弱なり。殺ろして、之を免れしめんとするは、眞との仁にあらず。抑そも。現世の苦痛は、意義なく益なきの罰鞭にあらじ、之に道德上の心切なる旨趣あり。苟くも、人世の道意を觀じたらんものは、寧ろ忍びて之に耐へ、感謝して、其敎を受け、此の間に靈性を伸し磨き且つ養用するの道を覺るならん。其苦に堪へずして之と斷離せんとするは、仁人義士の度量にあらず。

十數年のむかし、或る法外の若ものありて、日本政府の管轄より脱し、日本人たる資格を止めんとを願がひて、脱管屆なるものを出せし壯士ありき。此は。實に無法の處置たるのみならず、亦た、頼母しからぬ精神と云ふべし。當時、聞くもの、或ひは嘲けり、或は卑しみ、毫末も同情を表せざりしこそ、尤ともの計らひにてありけれ。夫れ、生を斯土に享けて、十九世紀、明治年間、今の日本政府の下に立つ。たとひ、國家まどひ、政府腐るとも、之を棄つべきの道あらんや。國破れて、たゞ山河のこるは、忠臣之に先だちて死すればなり。先だちて死せずんば、文天祥と共に死せん。いづれか、邦

家と其命運を分たざらんや。太平に於ては、太平に處するの道あり、亂世に於ては、亂世に處するの務あり。臣民として、帝室と邦家とに盡すの義、豈に世態の如何によりて增減あらんや。もし、增減ありとせば、寧ろ濁世に於てこそ其度を增すらめ、安くんぞ、之を棄つべきならんや。此故に、國亂れ、政濁り、人腐るの時世に於ては、いよ〳〵以て士民たるの義務を長ず。愛國の徒が本色を發揮せしむるは、正に斯の時にあり。何如んぞ、山林に隱れ、海に浮び、單に一身の安を貪ぼるべけんや。

國亂れて忠臣あるその如く、家亂れて則はち孝子義弟あり。一家、貧に迫り、家族、困頓し、所云る室家の不幸大ひに重なるの時は、則はち是れ、孝子其孝を顯はし、義弟其悌を盡くすべきの機會なり。此時に當りて、吾家に樂しみなし、故に之を去らん、吾家族と相合はず、故に之より離れんと云ふものあらば、何如ん。天下、皷を鳴らして其罪を責めざるものあらじとぞ思ふ。

夫れ、人世に苦痛滿つると雖ども、之を去るは、道にあらず。一國亂離すと雖ども、之を棄るは、不忠なり。一家貧困し族人和樂せずと雖ども、之を出るは、不德なり。此を以て、人、未だ曾て世を厭ひて自殺するとを可とせず。國を見棄てゝ之を去るとを許さず。家を出でゝ其血類を離るゝとを大ひに責むるにあらずや。然るに、獨り男女相盟約して、伉儷となりたるものに於ては、或ひは、相合はざるの名に於て、或ひは、幸福なきの名に於て、或ひは、助け少なく利益なしなどの名に於て、相去り相別るゝとを不可とせざるは、何んぞや。室家の根元は、伉儷にあり。伉儷よりして、室家生じ、室家より、國成り、國より天下人世成る。然るに、人世天下、國家室家を離るゝを以て、不義不德として、伉儷相去るとに至りて、毫も同樣の感覺なき所以は、何ぞ。

(二)　合せもの

曰く、合せものは、離れもの、と。伉儷の一事に於て、別離を物のかづとせざるは、元來、之は、人爲に相合したる者にして、天爲に自づから相着きたるものにあらずと認たむるの故に因る。「人の世に生れたるは、天爲なり。生れて一國に屬したるは、天爲なり。斷ちて倘斷つ可らざる血緣に繫がるゝものは、天爲なり。然れども、男女の相合したるは、隨意の盟約

にして、亦隨意に相離るゝことを得べきものとす、これ、人爲なれば也」と。

如此き、理解の淺薄なることは、道念高潔の人に於て敢て承服すること能はざるによりて知らる。男女、聖愛至戀によりて一生の同伴を、相約し、艱難喜樂を共にして、同穴に入るの日まで、相倫らじと盟ふ。盟語、消ゆべし、記臆尙ほ滅するも、天地間人類歸趣の一大白紙に、「此の二人如此く相盟ふ」と明記したる聖なる一大事實は、安くんぞ、徒爾輕卒に消ゆべきものならんや。齡ひ丁年に達し、勘辨、其度に到り、而も、全心、全靈を盡して、相撿らべ、相合し、相約したらんことの一大事實が、其人爲なるによりて輕ろしとせば、何を以て、血と云へる一流動躰の配合によりて、知らず識らず此世此土に生れ出でたりてふ（單に）生理上の一事實が、更に重大なる乎。人は、万靈の長なり、道念は、人心の長なり。然るに、道念を盡して決したる事實が、無意識、無道義の事の結果として出で來りたる世緣、國緣、血緣等よりも劣るとは、何の論理ぞ。左れば、如此き天爲を重んじて、彼の如き人爲を輕んずるは、意味なき小兒が論理に比すべしとす。必竟、これ、習慣になづみ、運命說に支配せられ、「人」として、卓見聖考することなかりしの流弊なる耳。

此故に、最も高き大教師は、下の如く敎へ玉へり。曰く、神の合せ玉ふものは、人之を離つこと能はず、と。伉儷を以て、單に便利上の合せものと思ふは、極めて陋なりとす。もし、道に從がひ、義により、至愛を盡して、相合したるの伉儷あらば、則はち是れ神の合せ玉ふものたり、安くんぞ人（人の解釋、人の都合）之を離つべけんや。伉儷別離の事を輕々しく見來るの徒は、そも〳〵最初に、其相聖合したる所以を辨ぜざるによる。而して又、最初に、此の聖合なきによりて、後に之を輕々しく別離することを憂ひとせざるに至る。其過まち、初にあり、又、後にあり。もし、初を愼しまば、後に其事あるを許さず。そも〳〵眞の伉儷たるものは、決して相離るべきものにあらざる也。離緣の爲す可らざると、則はち、此の道義あるに因る。

（三）　破鏡覆水

離緣元來爲すべからず。況んや、離緣の口實となす所ろの諸々の陳辨の如き、多くは、皆な、利己、謬見より出づ。必竟

もと、伉儷の道を知らず、又室家の天職を辨まへざるによりて然るなり。

夫れ、伉儷の使命は、相愛するにあり、室家の天職も亦た愛にあり。而して此の愛や、國民に對し、天下人世に對するの愛と異なりあるべき謂れなし。たゞ、人世に生れ、國家に屬すると同一の主旨を以て、こゝに室家をつくり、伉儷を爲す。其道や、愛にあり、其務や、獻身にあり、其目的や、吾が靈性を發達し、又、他の靈性を發達せしむるに在り。

此故に、室家の亂るゝと共に、此亂に處するの道あるへきが如く、伉儷不幸にして相合わず、相樂しまざる時に當りても、亦、此變に對するの道あり。伉儷の相愛し相睦むべきは、其望みなりと雖ども、時ありてか、其然らざることあるは、團欒を主旨とする室家に波瀾あり、太平を理想する邦家人世に苦痛亂闘あると異なることなし。而して、國、家、及び人世に對しては、其變に對するの道あるに關わらず、此等あらゆる團結集合の基礎たる伉儷の間柄に於ては、ひとり其幸福和樂を望みとするのみ、一朝相反き相合せざるに當りては、足の塵を拂ひ、手の泥を洗ふとの如く、乍まち棄てゝ毫も疚しきことなしと云ふは、そも〳〵何等の謬見ぞや。

思ふに、是れ、利己主義の過失より出づ。伉儷は、たゞ快樂を取るべきものと誤解し、詩人が其樂しき間柄を寫せるを見て常にかくあるべきものと謬信し、シエレーが雲雀の歌にほれて、天雲と野もせとは、つねにかく晴れて斯く樂しきものとのみ思ひ違へ、初めより利己主義の迷に於て伉儷の縁しを結ぶ。此に於てか、破鏡覆水の不義を行ひて、而も恬として恥ることなし。

抑も、家廢れて孝子出で、夫苦しみて貞婦現わるゝは、何故ぞ。不幸、苦痛は、人をして靈化せしむるの教訓たるが故なり。釋尊は、老、病、死を見ざれば、悟ること能はず。艱難に際會し、靈悟徹底するは、則はち人、道に進むの規則なりとす。此に於てか、人世に不幸あり、邦家に亂離あり、室家必らずしも團欒せざることあるの主旨を悟る。天意の消息やゝ悟ることを得べし。然るを、伉儷に於て、ひとり此理わりなしと云ふは、何事ぞ。

家の貧苦なるは、富めるよりも幸福なることあり。病多き身は健全なる人よりも心すが〳〵しきことあり。一家、くるしみ

に迫りて初めて家族團結す。此故に、伉儷相合はず、ホームの樂しみ薄き時、靈示、天の一方より降りて、其人となり、ますます高く、則はち、ますます其同伴者を聖愛して、遂に眞正の靈和をつくり出し、雨落ちて月かゞやき、風渡りて蕾開らくの觀あること多し。

此故に、不和、不合、又は、樂少なし等の名に於て、相去り、もしくは、事業の上に不都合なりと稱して相離るが如きは、皆な不可なり。彼等は、素と輕々しく相離ることを得べからざるものとす。故に、不合、不和の晴るは、合和を希がひて、個々反省自修すべし。樂少なきの一事は、決して許すべきの申條にあらず。又、事業に不便なりとは、何の謂ぞ。人、大切の關係を忽諸にし、直接の義務を蔑ろにして、而して、他の何の事業を爲さんとする。事業とは、道德上發達の行爲なり、只だ瓦を積み、石を重ね、錢を畜はふるの謂にあらず。果して、然らば、當に爲すべきの務を盡すに於て、他の事業に何の妨げあらんや。

吾黨は、何如なる場合にも、離緣ある可らずとは言はず。亦、何如なる場合にも、其室家を去る可らずとは言はず。時ありては、寧ろ、離緣を主張し、又、室家を去ることを勸告することあるべし。何にとなれば、結緣と、室家とは、人の最後の目的にあらずして、一の方便なるが故なり。左れば、彼目的を重んずるか爲には、此の方便を打破々壞して毫も妨たげなしと斷言す可し。目的とは、何ぞ。「人の靈性發達の爲め」、これ也。あらゆる事情を綜觀し、八面玲瓏、周密極徹の思慮を盡し、離緣と室家を去ることが、本人の爲に、又、其相手の爲に、又、社會一般人の爲めに、即はち人世に存するの大主旨の爲めに善也と信ずべきほどの場合あらば、則はち、離緣、勘當、出奔、そもそも何々程の事ぞ。眞に些事たるのみならず、寧ろ斷行すべきもの也。

たゞ愼しむ可きは、斯る場合に於て、あらゆる人を惑はすは、其利己にあり。然かるを況んや、初めより、利己、快樂を以て、伉儷室家の主義と定むるをや。安くんぞ、不德不義に陷いらざることを得ん。

且や、人々、隨意に其事情を參酌すと稱し、勝手に、離緣、勘當、出奔の事を爲すときは、風敎上の弊極めて多し。人は、其良心に恥ぢずば則はち可なりと言ふ可らず。良心に恥

ぢざるべきは、もとより論を待たず。されど、既に、社會環內に立ち、イーチ、エンド、ヲールの影響あることを知らんものは、單に己が良心に恥ぢざる耳ならず、人をして、摸倣履行せしめて、毫も誤なく誘惑なかるべきほどの大道を步行すべし、此に於てか、單に銘々其事情を斟酌すと云ふを以て許可せず、特に道を定め、義を明らかにするの必要生ず。道義眞とに明辨せずんばある可らざる也。

（四）　二極の謬見

惟んみるに、今の室家伉儷の事を言ふものは、二樣の極端に走る。一は、家の爲めに人を利用し、又た、夫の爲めに妻を利用するものこれ也。他は、幸福、快樂、利己の爲めに、家をつくり、伉儷を結ばんとするもの是れ也。二者ともに誤まれり。ともに、室家伉儷の天職を辨まへざるによりて、此の誤りあり。

○上毛の存娼論

嘆ずべく、又驚ろくべきは、上毛の地に於て、近ごろ存娼論の新に勃興したることなり。

上毛は、廢娼論の勝利を得たる初陣凱旋の地なり。縣會の議決に隨がひて、知事之を認可し、十ヶ所中の三ヶ所の遊廓は既に先づ之を廢し、本年十二月限り、殘七ヶ所の遊廓を全廢し、群馬縣下に一妓樓なきに至らしめんとするの今日、突然存娼論なるものの現はれたり。

此論の中陣は、上毛新聞にあるもの丶如し。同新聞紙上に、淫風矯正軍と云へる一欄を設け、去月二十九日「公娼竟に設置せざる可らず」と題する一文を掲ぐ、其主意に云く、

彼の密娼なる者は需用者を絶つに非んば、決して減ずべきものにあらず、今は幸にして群馬縣警察の嚴正果敢によりて徐々風紀の維持を保つと雖ども、警察豈に長く密娼の取締に重なる可けんや、縱令ひ重なるを得るとするも、堂々たる行政の機關を以てして淫風黴毒の監督を爲すが如きは爲政の上に於て大に顧みざる可らざる也、況んや限ある吏屬をして極なきの密娼を防ぎ他の治安を外にするに於てをや。

此の笑ふべき小兒の言の如き議論も、多少の効あるものか、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第一に、青年攻玉會なるもの出來て學術存娼演說會を開き、
第二に、存娼同志會なるもの出來て、左の三事を決す、

一　前橋市に於て存娼大演說會を開く。
二　全縣下に遊說委員を出す。
三　縣會に對し廢娼令の取消を請願す。

吾黨は、かゝる馬鹿らしき運動の結末を察すると難からず。群馬縣會は、此の愚なる請願を容るべきにあらず。知事も、もとより之を認可すべきにあらず、縣下前年來の廢娼論有志、英氣今尙ほ隆々たり。安くんぞ此の狂戯をして奏効せしむべけん。

然りと雖ども、油斷は最大の敵なり。ことに、此期に及び、勃然として一軍團の生起せしと、頗ぶる奇しむべし。其兵糧は、果して何ものゝ仕送りぞ。其軍配は、誰が指揮する所ろぞ。大事、多くは小事の爲めに、破らる。愛國正義の廢娼有志諸君、斷じて氣をゆるうすると莫れ。

○日本の花嫁

府下に於ける新教各宗派の有志者より組織せる協議俱樂部、日本基督教會内有力先達者の集會せる會議、及び婦人矯風會等に於て、皆一齊に非難したる「日本の花嫁」につきては、上記三集會より夫々委員を派遣して著者田村直臣氏に勸告する所あり。田村氏も幾分反省のよしに聞え、正誤文を新聞紙上に掲載せられんとする趣きにも聞え、久しからずして落着すべきと思はれたるが、田村氏は寧ろ日本基督教會中會の審判を經て後ちに進退を決すべきとに再考し、其日の來るを待たり。

去三日より七日迄、五日間開かれたる右中會に於ては、井深和田、山本、熊野、マクチヤの五氏取調委員となりて、田村直臣氏は、教師としてあるまじき所爲ありしとの報告を與へしかば、則はち、井深、山本、熊野の三氏、告訴人に撰ばれて、公けに田村氏を訴へたり。

審判の席上に於ては、田村氏七ヶ條の關接の證據を列擧し、同氏が十八歲にして長老となりし事、教師になりし事、現に、傳道學校長たり、自營舘主たり、主に忠實の僕たると等を自から保證せられたり。

然れど、審問の末、議員の多數決をもつて判决とし、議長より、田村氏に對し、

我同胞を讒誣したる者と認め同氏を譴責し且つ將來を誡しむと宣言し倘同氏に正誤文を內外の新聞に公告すべしと勸告せしが、

田村氏は、右宣告及び勸告に服せず、日本基督敎會の大會に上告せり、大會は、明年七月に開かるべきなり。

兒籃

いわひ歌

第三曲　しづ子

カロルは母の涙も、父の心痛も一向に知らず、元生れた室に穩かなる月日を送り升た。

併し其室といふのが、元とは見違へるほど、變つて居り升た。どうしてかといふと、カロルの父は大層なお金もちで、何もかも自由で有つたそうでした。其お金で秘藏娘に健康躰を買つてやれないと思ひ升時には、黃金も、白銀も、みんな海へ投げてしまひ度時も有らしいのでしたが、さりとて、切めてものとに、娘の居る部屋を力の及ぶ限り、美しく、住よくするとには悅んで、つとめ升た。

元來の部屋へ建増しをし、下の庭へさしかけて、一際大きな坐敷を拵らへ、これへ玻璃窓を三方につけた處は、丸で花の室を見る樣でした。それ故、傍の窓は、これまでより一層敎會に近く、前の方は眺望の美い港を見晴らし、裏の方の窓からは、少さな路途の外は格別何も見へませんかつた。然るに、此裏窓から見へる物は、カロルにとつて最も面白いでした。なぜかといふと、此路途には、ラグルス一家族が住居をして居り升て、九人といふ大中小のラグルス家の子供は、カロルに、此上もない面白味の種でした。

玻璃窓外の板戶は、開ければみんなカラリとなり升て、カロルが此愉快なガラスの家に座つて日光ぼこりをするも自由なり、また、可哀さうに、頭が痛むとか、愛らしい眼が疲れて居るとかの時などは、悉皆閉ぢてしまふとも自在でした。敷物は薄鼠に柊木とべーの木の綠の葉を散らしたので、道具は白木で。これへ畵工が雪氣色やら、クリスマスに建てる常盤木

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やら、祝ひ歌を歌つたり、鈴を鳴らしたりして居る嬉しげな子供などを畫き升た。

ドナルド兄は、奇麗に飾をかけた棚を拵らへ升て、これを寐臺の足止りの外へ鈴ですつかり、箝め込み、此上には兄たちが絶へず、花の咲く盆栽を置き升た。寐臺の頭の方にも、兩方に盆栽の臺が有升て、これには例の美事な「處女の髪」といふシダか植へて有升た。

カナリヤや愛鳥などが金光りの籠にはいつて下つて居り升て可哀さうに、カロルが寐床を離れられぬと同様、泊り木を離れることが出來ないものでした。

部屋の一方には、數百巻の書物………本當に數百巻並らべて有る書棚が有升た。其書物の中には華やかな挿畫のある者もあり、ないのもあり、みだしの一章毎に附いたのも、一切附いてないのも、詩の書物も、おはなしの本も、子供を笑はせる本も、泣かせるのも、少さい人たちの讀む、やさしい文字の本も、學者な子供もて余ましさうな六敷いのも色々有升た。これがカロルの圖書館で、土曜日になると、カロルが手づから十冊の本を撰らび、其表題を少さな手帳にとめて置いてこれへ一々名刺を入れ升た。そして其名刺には「此本を二週間もとめ置きなされ候て、御讀み被下度候」ベード、カロルよりと認め升た。

それから、ベード夫人は、馬車に乘つて、其十冊の本を育兒病院へ持つて行き、二週以前に置いていつた、十冊を持つて歸るが例でした。

これがカロルにとつては、非常な樂しみでした。なぜといふと、病院の子供の中で、手紙が書ける位な年格好で、書く丈位には病の愈へたものが時々其書物を讀んだことについて、可愛い手紙をよこし升と、カロルは亦其返書を書のでした。さういふ風にして、自然お友だちになれたのでした。おかしい様なものですが人がお互ひに愛す様になるには、是非逢はなければならんといふものでは有ません。みなさんお考へなさつて御覽なさい、わたくしの申すことが間違つて居るか、どふですか。部屋の三方には板のハメが有升て、其上へ金椽の額面になつた、一面色々に彩色した玻璃の澄きとふる畫が並べて有升た。これを一枚〳〵見引き升と、自然さま〳〵のお話しが分る様にしてあつたので、其話しの中には、日本の子供のよ

く聞、猿蟹や、舌切すゞめ、桃太郎や、紅皿などの類が有升た。それからまた、さま〳〵美事な着るものが戸棚に一杯はいつて居り升た。併し、外表へ着て出る様な衣類は一切なく、寝まきや部屋着、シヤウルヤ、上靴の類已でした。それからまた、おもちやが一杯はいつて居た引出しが有升たが、これは、何れも膝の上でもて遊べる様なもの計で、手鞠とか、羽子板とか、弓矢とかいふ類のものは一ツも有ませんかつた。併つまり、カロル、これ等がなくつて不足といふ處は見ませんかつた。却つて自由のきく他の子供だちの方が、どの様なおもちやを持ても不足らしい處が見へ升た。カロルの如きは、持つも、持たぬも、いつも幸で、満足して居らぬといふとは有ませんかつた。

カロルが生れて、八度目のクリスマスに、カロルの部屋を此通り、奇麗に飾り升て以來、カロルは戯れに自分を指して鳳凰(英語で Bird of Paradise,即ち極樂鳥)と呼び升た。

師走のこの頃、カロルが取り別け、いつもより、嬉しがつて居る譯が有升た。何かといふと、叔父さんのジヤックといふ人が、ヨウロッパから休暇を幸ひ、來るといふ便りが有つたからでした。此大好な、面白くつて、可笑くつて、懐かしくつて、氣の利いた叔父さんは二三年に一度、キット、故郷へ歸つて來て、其都度、家中溢れる計りの悦びを持つて來るので、再び海を渡つて外國へ歸つたあと一週間位は、世の中が夕立前の雲ほど暗く見へる程でした。

此頃の郵便船で來た手紙は、一寸こんな鹽梅のものでした、

米國の雛鳥にクリスマス祝ひ申進じ候。願わくは各個、少しく翼を清め巣を擴て來らんとする祝の日にジヤック叔父をうけ入よ。余が携へんとする櫃には珍しき寶あまた入れたれば、おん身等は從來の靴足袋にては事足るまじく、パーナムの見世物小屋より大男大女の靴下にても借用なされずばかなふまじと存候。余が來らんとする一ツの理由は彼のいたいけなる雛娘を嫌といふほど抱きしめん爲に候。其他先頃買ひ求め候黒き小馬の世話を頼み度存候に付其人を探見の爲に參り候譯に候。甚だ不思議なるとには此小馬こそ殊の外笑窪が好に御座候。然るにヨウロッパ諸國を探ね候も未だ一人の適當なる人見出し不申。是非ともこれを故郷に尋みんと考へ候とに候(此時ヒユーは大聲に「甘いぞ〳〵大分笑くぼの風なみがよくなつた、モウ男で笑くぼがあつたつて恥は、かゝないや」といひ升た)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

御都合によつては此年こそクリスマスの木は大木にして貰らい度候〇三四年前ありし四五尺のひこばへは眞平御免に御座候物置に建てる方御都合よければ、それにても宜しく万一屋根に支へ候樣なれば、穴をあけ候ても大事御座なく候。

ブリゲット（お三）に七面鳥の用意を今より仰せつけられ度候。廿日頃までには其七面鳥は二本の足に立つて居られぬほど肥らせねばならずと命じられ度候。殘る三日間は横に寐かして樂にして遣り尚其上ハチ切れるほど、餌をかひ候樣致し度候。

菓子もなる可く大きく拵らへ杏はなる可く澤山に入れ甘く鹽梅され度賴み入候。叔父は大概廿日までには來着いたし、何かの指圖を自らせんもと考へ候へども万一後れし時の爲め、かくは委しく賴み置候。

カロルには木を撰んで貰らひ度候。クリスマス兒なればカロルより外に撰び得る者なし。序に笑くぼのある人をも見つけて貰らひ度。多分間近に見出し得ることと信じ申候。七面鳥のことも、ブリゲットにいひつけて貰ひ度候。菓子の中へ杏を入るゝにも、是非カロルの手を借り度。カロルがあんずを入れしならでは、此叔父は其菓子一切も食らふまじく候へば、ブリゲットは心得て娘さまのお部屋まで持參にてお賴みいたすべし。クリスマスを待つに付て此叔父に何より大切なるはカロルに候。カロルなければなんぞクリスマスがクリスマスならん、世界中の七面鳥よりも、菓子よりも、林檎よりも、宿り木よりも、橇乘よりも、何よりも叔父はカロルが好に御座候。クリスマスの祝ひ歌の中に、カロルほどめで度美事に出來たもの御座なく、叔父は滊船滊車の叔父を乘せて走る丈早く、口づからカロルに其事を申聞かせ度大急ぎいたし居候

草々

ジヤックより

ベード一家へ

カロルは此手紙を讀んで大悦びをいたし升た。ベード夫婦もカロルの兄たちも大悦びに悦こんで、子供等は餘り大きな聲をたてたので、裏のラグルス一家では、一同戸口へ集まつて隣りの、お邸では、何が始まつたかとビックラして居り升た。

理學

時間の話

馨子

砂時計の砂の落る高、水時計の水の溢るゝ高、偖は線香の烟と消ゆる割を見て、今は大方何時との當推諒、日影も丁度其頃と、長うなりし籬の影、又は短うなりし木蔭などにて、時間を知りにし昔は知らず、今は時計の針のキチ〳〵と鳴る、其音の一つだに、仇おろそかになすべき世にはあらずかし、若し世に所謂、魔神なるもの誠に在りて、人々の眠れる眞夜中、潜かに世界の時計を殘らず狂はせ置かば如何、商人は約束の期限を間違へて、飛んだ失敗、罠に掛り、役人は出頭の時刻を外して、思はぬ不首尾を來し、學生は出校の時間を違へて、出席點を失ふべし、なれど其等は物かは、若し停車場にして斯ることの起りもせば、彼恐るべく驚くべき報知は、瞬間にして我々の耳朶を衝て至るべし、滊車衝突、即死者、負傷者、慘狀見るに堪へずとの、世界に好しや獨立獨歩物にすがらぬ大丈夫ありとも、時計に便らぬ人はあらざるべし、彼愛らしき小兒が、時刻に後れじとの學校への道すがらも、老ひ去つて北邙一片の烟と消ゆる時も、人は片時も時間といふ觀念をば離れ得ぬなり、偖時といふことに就き、第一に起る疑ひは、世界には常に晝と夜とあれば、朝もあれば夕もあるべし、啻に晝夜朝夕の違ひのみか、時々刻々、地方々々に依りて違ひあるべし、其れに時刻の均しきは如何、將又其違ひたる割合は如何、といふことなり、今玆に其概畧を說くべし、凡そ晝夜は地球の自轉に依つて生ずること、言はずものことなれば、其太陽に面する部分は、常に一樣ならず、時々刻々に變化し居るなり、去れば我國の正午は、英國の正午ならず、英國の正午又米國の正午にてもあらぬなり、斯く離れたる國の時間に相違あるは言ふを俟たず、我日本內地にても東端と西端とは一時間餘の相違あるなり、根室花咲邊りの小兒、夕暮に蜻蜓を捕らへて、六時に遊び倦みて寢るとせば、鹿兒島の小兒は、七時半時に遊び飽きて寢る割合にて、蜻蜓を捕ふる時が、恰かも根室の小兒の寢る頃に均しきなり、但し是

は時間を一定のものとしたる時のことなり、去れど正午なるものは、其地々々にて一定のものなれば、人爲にて改むるを得ず、若し之を全國一定のものとせんか、或一部の塲所を除くの外、正午ならざる時を正午となし居るにて、不都合といへば不都合なれども、前にもいへる滊車、及び電信などの關係あり、交通繁き世の中には、是非共其の時刻を一定せねばならぬなり、若し之を地方々々の時刻とせば、大阪の人正午に東京に着くといふを聞き、其友人早速新橋に出迎ふるに、時間は恰かも正午なるに、其人は疾く新橋に着きて、何れにか立去りし後なりしなど、思はぬ行違ひを生ずること勿論にて、其行違ひを避くるには、一々時刻を換算せねばならず、此故は我國にては、丹波の西部、播磨の東部を經過する子午線を元とし、此線の正午を全國の正午として、時刻を定めあり、其斯く定まりしは明治二十一年一月一日よりにして、其時を標準時と稱す、此標準時は、丹波播磨の子午線の正午ゆゑ、今の東京の正午は、眞の正午よりは遲く、鹿兒島邊りの正午は、誠の正午よりは早し、午砲が鳴ればお正午と人はいへど、誠のお正午は疾く過ぐるなり、次に起る疑ひは子午線のとなるべし、子午線は即ち經線なり、此地理學者の假想せる經線は、南北極の兩方の起點として、三百六十度に分れ居るものなれば、線の長さは共に均しと雖も線と線との距離は廣きところあり、狹きところあり、即ち赤道地方は其最も廣きところなれど、兩極に到れば零となる、偖此三百六十度の子午線は、交る〲太陽に面して晝夜をなすが故に、一晝夜即ち廿四時を以て、三百六十度を除すれば、十五度を得、是即ち一時間に經過する經度の數なり、世には日時計とて、磁石の南北兩極に依りて線を畫し、其南端に少さき針などを立て、晴天の日其影の線と相合する時を正午なりと、いふ人あれど、磁石の兩極は、地球の兩極とは少しく位置を異にするを以て、此正午も、確かなる正午とは言ひがたし、以上の理由に據り、今玆に一の疑問を出さむ、前にいひし丹波播磨の子午線と、英國グリニッチの子午線とは、經度に於て百三十五度を隔つ、此時間の違ひ如何、之に就て明らかなる答は直ちに得らるべし、即ち前に解きし一時間に經過する經度の數は、十五度なれば、之を以て百三十五度を除して得たるもの即ち九なる數は此時間の相違を現はすものにして、英國は西

部ゆゑ、グリニッチは丹波よりも、九時間遲きなり、假令ば中秋の夜、丹波の人が月出を看て、明月を叫ふ頃は、グリニッチは未だ晝にして、丹波の月出よりは九時間を隔てたる、丹波の人が已に大方釜を拔れし頃に、始めて月光の麗はしきを拜し得るなり、是に至りて更に一層進みたる疑ひは生ずべし、日本內地は、丹波播磨の子午線に據りて標準時を定め得べしと雖も、今や交通は世界各國處を分たず、日本は島國ゆゑ、外國への滊車の便りこそなけれ、滊船に電信に、瞬時も音信を絕つことなし、日本內地ならば、一時間位の相違は曲て忍びても、標準時を定め得べけれど、世界には夜あり晝あり、眞逆或國の正午を以て、夜の國の正午とする譯にも行かざるべしと、成程疑問の通りにて、世界各國の時間を一樣に定むる譯には行かざるなり、去りながら電信郵便などを發するに、各國各時間を異にするも甚だ不便なり、今假りに丹波より英國グリニッチに、正午に電信を發したりとし、其電信九時間にして達したりとせば、正午發の電信は正午に達し、毫も其手數の時間を要せざるもの丶如し、若し之より早く達せば、發する前に已に達せるが如く思はる、而して其理由を知るには、一々前の道理を推さねばならず、故に千八百八十二年即ち我明治十五年、米國政府は此不都合を除かんが爲め各國へ時間に係る大會議を開かむとを申込み、各國の委員は八十四年十月一日を以て華盛頓府に會合しぬ、此時は我國よりも菊地博士を派遣したり、斯くて各委員は協議の後、遂に英國グリニッチを經過する子午線の時間を以て、普通時とするに決し、隨て經度の零度即ち基本の子午線も亦之を用ふることゝなり、それより東經を正とし、西經を負とし、各百八十度に至りて止まることに定まりぬ、是より以來は、海外への通信は、總て英國グリニッチ時を用ふることになりしを以て、其發着の時間を知るに、前の如き不都合なきに至れり、去れどグリニッチより百八十度のところは、恰かもグリニッチとは踵合せのところにして、時間に十二時の差あれば、グリニッチの正午は、其ところの夜の十二時なり、然るに若し此萬國會議の決議をば、各國其國內にまで施行するとならば、是亦不都合少なからざるが故に、前にもいふ如く我國には又我時の時間を定めて、此不都合を避くる事とせり、而して世界の時間は之を普通時と稱し、國々の時間は之を地方時と稱す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

主婦の精神過勞

しづ子

精神過勞が原因です、お眠りの出來ないのも。先づ家を離れて閑靜な地に、療養をなさるが、何よりですが、それがお六敷と仰しやるんですから、仕方がない、毎日少しづゝひるの中にお寐ることは出來升まいか、二階へでも入つしてといふのは、さる家の主婦に向つて醫者のいふことでした。

迚も出來ない相談で御坐い升よ、半時たりとも、私が靜かにして獨りで居るなどゝいふことは出來ませんこつてすからどふも六人の子持といふのですから休息の出來ないのも無理は御座いませんネ。それに赤ん坊が晝はよくふせり升から、其間に縫ものなどをしよふと存じ升て…………。

家政のことは暫らく好加減にお捨てなさらんといけません。

家政のことはよしと致し升ても……茶碗の洗ひ樣だの、鰹節のかき樣などまでも、世話をやく方では御座いませんから、大概は下婢任かせにすると、致し升ても、子供のことが仕方が御座いません。

醫者は職務外に此家族と交際のある人と見へ、

誰か御緣類のうちで、あなたのお手助けをする人は有升まいか、お袋さまは御老躰ですが、お妹御はどふです。あゝして淋敷暮らしをしつけて入つしやる方には、却つて子供の世話などが、變つて宜敷でせう。

妹とゝいふは產ず女である爲に先年酷くも離婚されて、今では獨りぐらしに世を果敢なんで居る人でしたが、夫人は今此人のことを思ひ、あの神經質の人にどうしても吾兒をと心は少しも引立ませんかつた。それ故ホツト嘆息を漏らして、

どふも、あの人も氣六ケ敷方ですから。

併し實際あのお方の爲にもなり升よ、御一身のこと計り思ひ患んで入つしやるから、丈夫なお躰も弱くなるといふもんです。(といつて何か急に思ひ起したものゝ如く、キツト改まり)奧さん、どちらを取るもあなたの御勝手ですが、あなたは、暫らく人手に小兒衆をお賴みなさるか、さもなく

ば、今通りモウ一年かそこらも、續いてお出になつた上句自滅を招いて、誰か他の女に子供を委ねて、歸らぬ旅にお出なさるか、二ッに一ッです。一ッ篤とお考へを願度ものですナ。つまり緩漫な自殺ですから。

ポント放げだした樣な、此一言の効能如何にと、醫師は患者の顔を覗いて居り升た處が、稍滿足する處があつたと見へて、獨り點頭いて居り升た。

夫人は、何となく、イラ〱して、物いふさへ押屈になり、無言に會釋して、診察塲を立出升た。消然と我家の敷居を跨ぐや否、騷が敷一群れが出迎へ升て、口〱に母の注意を引かふとして居り升た。子供らが夫人の周圍に群がつた處は、花の盛りのあでやかさでは有升たが、かく喧ま敷口のない花であつたならと、母は思ふとでせう。平常なれば、此喧々囂々が却つて母の耳には、音樂と聞ゆる筈でしたが、この頃では、夫人を責めさいなむ道具となつて、問ひに答へるも、爭ひの引わけをするも、しとやかには、出來ぬ樣になり升た。淸く、高く、沈着な母となつてとは、始終理想して居る處でしたが、近ごろは、うるさく立寄る子供を撲のめし度なるとが有升た。夫人はこれが万一、狂氣の始まりではないかと危み升たが、醫者は精神過勞と診斷いたし升た。

其夜夫人は赤兒を寢がしながら、醫師の診斷と治療法とを考へ、月の光りを打守りつゝ曉近くまで、工夫を廻らして居り升たが、俄かに一ッの名案と思われる考へが出て來升た。夫人は心靜かに、朝飯の用意などして、人の眼覺むる頃に、小女を走らして、母と妹の住居に封書を持たせ升た。其日一日家の留守居にとて、妹を迎へに遣つたのでした。小女と共に入來つた婦人は、

姉さん、下町へお出ですか。わたしもくさ〱して居升けれど、子供の守位はして上ずばなり升まいナ、たんと買物をなさつて入つしやい、

姉は買物に行くとも、何ともいはず、委細はあとで、獨り心にうなづき、子供に一〱挨拶して居る處を見て、不審に思ひ妹は、

なんのこつてすナ、姉さん、直そこまで買物に行くに、御丁寧過ぎるじや有せんか、と。

夫人は手にさゝやかなる辨當と葡萄酒入の小瓶を入れた革鞄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を下げ、車に乘つて、一里半ほどある町へ參り升た。訪ふた家はある町外れの下宿屋で、こゝに寄留した夫人の同窓の友は、今しも、學校へ出勤の間際と見へ升た。

あなた、お手間は取らせませんよ、一寸、五分計りお話しをさせて頂けば…………

といつて、我身の衰弱したも、醫者の診斷、付ては、一週に二度ほど此友人の空巢を借用して、終日精神の補をつけ度といふ相談をいたし升た。固より親敷間柄とて、頓みに相談とゝのひ、友人は悦んで其請をいれ升た。坐敷料の幾分をも負擔するヿを强ひて頼み、漸く承諾して貰らひ升た。

友人の出行き升たあとに、夫人は先づ少し計りの湯にて、脚湯し、葡萄酒少し計り飲み、部屋を暗ふして夜床に就く通りに眠る仕度をいたし升た。此家には「奥樣」と探ぬる下婢の聲なく、母ちやまと呼ぶ、子供の喚もなく、一つとして、我が負ふ責任は有ませんでした。半時間もたつ内には、スヤ〳〵と眠りに就いて、疲れ果た母は、勞苦を忘れて、万患を醫する妙藥なる睡眠に身心を委だね升た。一度は一寸眼さめて、いよ〳〵自分の休息して居るといふヿを確め、またスヤ〳〵と夢も見ず、愉快に安眠いたし升た。

夕飯まへには、家に歸つて、また悦ば敷子供の一群に迎へられ升たが、其聲〳〵がさまでに神經を刺衝する刺とはならず、幾分か心よく應答の出來る處に氣づいて、天の賜と悦び升した、それより、妹にも其の譯を語り、其承諾を得て、三ヶ月間、此方法に隨ひ、意外の好結果を得升た、其後此夫人は世間にまゝある主婦の困難を補ふ方法を發明したとて、獨り大に得意で居り升。婦人の忍耐だとて、必ず際限が有り升。時にとつての補ひに注意せず己が身一ッを責めさいなむ御婦人は、決して良策を取る人とは申されません。其上こゝに述べた類の方法なれば、金も入らず、時もかゝらず、家中の革命を企つるにも及びません。健康さへ全ければ、妻たり、母たるものゝ悦びは、喩ふるに物なく、百年も千年も此まゝに勤め度と願ふ筈です。世の妻たる人、母たる人、夫を愛し、兒を愛する人は、時に嚮む病の使を輕視せず、天の使の命ずる處として恭しくこれを養なひ、幾倍增たる憂を招かぬ樣に注意被下ば、此實話を諸姉に報ずる者の幸はいか計りでムいませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

米國の家庭教育及女學校寄宿舍

（在米國女子大學）　在米の日本の小女

東の空を眺むるも西に向ふも愛する日の本目前に見ゆる如く全胞の姉君方を慕ふの情は止む時なくも學ひの科目數多くて終に今日迄筆取る機を得ませんでした今日は數分の暇を漸くにして得ました故にたらぬ事も多からんなれど私の時々の感じ事あつめて

はきだめ

●●●●家庭教育　「娘を女學校に入れると家政にうとくなる炊き洗濯も出來ぬ斯くては家を修むるに不適當の廢物となる故私の娘を女學校へやらぬ」とは世の母公達の御不足ですがこれを極めて御最千万こんなつまらない娘では責任多き家柱とはなれません故注意は大切です私は不幸か幸か十二三才より十五六歲の頃まで家事に從事せねばならぬ身となり且つ生活むきも豐かならねば幼き腦にあまる迄にやりくりして一錢の金も十錢の價に費し病る母には樂をさせ度遠國に在る兄には成丈ならば月に送り吳れし金より余計の事は費させまじなど丶思ふより隨分おもしろきおかしき數年を過しました其のお陰にて幾分か家政學を實際的に學びました爲に私は私の友達が受け居る苦き譴責は直接には受ませんだ併し短き歲月教育に從事する身となり女學校へ對しての親公の御不足多少自らの身に負はねばならぬ場合になりました或時は學科中に家政科を充分置かんと或は校内に完全なる料理科の如きを設けんに如くなかるべしなど考ました去りながら女子は男子と違ひ修學年間も短かきが上に學ぶべき事多く學藝に進歩の機を與へんとせば一方が疎くなり一方に手を張れば一方は衰ふる如く如何せんかと議論否決は常なりし或時には世界に於て女子教育最も進歩したる米國且凡て實際的を重ずる國に於ては此點は如何ならんか何が上策なるべしと考へ見る事あらん聞く事あらんかと耳を欹てゝ居りました幸にして自ら此國に於て實驗するを得るの機を得ました此機をは失はじと注意致居るも其爲に時を費す事も出來ませず爲に私の心中に米國の家庭教育てふものをあり〳〵描き得る迄とて余程の時を要しました今日とても元より私の鈍き眼故充分見貫きたりなど丶誇る事はなか〳〵出來ません且此大切なる問題を拙き筆にて悉くかき能はぬ事は無論の事で御座います只此紙上を拜借して私の愚かしき淺き考へをもらし我國の女子教育に熱心なる兄姉の御教示を願ひ且娘公を持ち玉ふ母公に家庭教育の御注意を促し又女學校にいまして御勉學の姉妹方には以前の弊風を改めてお孃さんの行動も忘れ玉はぬ樣にと文章の拙なきも思ひの粗なるもかへり見ず述べます若し御參考の一とも相成は誠に幸と存ます

西洋の育兒法等は定めし御承知の御方も多からんと存ます且赤子に於ける育兒の有樣は今日私の述べる目的にあらねば畧き人心づきたる頃より御扱ひ方を少し申上ます先づ小兒歩行を自由にするに至らば自分の手遊び品の出し入れ等は人の手に依賴せず遊び終れば各々箱に納めて押入れ或は其納むべき處に持ち行かしめますこれは一は依賴心を防ぎ一は怠惰の風習をつけざる爲と存じます女子五六歲に至り食臺に手の達せるや達せぬ頃より食堂の片付等を手傳にせしめます長するに及び室内の片付其他万事母或は姉に順ふて見習ひつゝ働きます元より小兒は母や姉のまれをしたがるものなれば命せずして働き教へずとも覺へます母が仕事室にて裁縫して居るを見れば自らも針さしを取りだし人形の衣類等母に敎へられつゝ縫ひ靴足袋のつくろひ衣類のほころび等は六七才より母親は教へます小學校へ出るとしとなりますも朝は學校に出る迄母姉或は雇女と共に立働らき學校より歸れば獨學時間並に遊歩時間を除きては再び家事を手傳ますか或は手細工編物等などなします當國の子供にして家の内にてあちらにぶらりこちらにぼんやりとなす事なく時を費し居る子あらば必ず病持ち此世に暇乞する時に迫り居るのです土曜日は大抵の家にてはパン或は菓子を製する日ですこれ等の事母に從ふて學び熨洗濯等に於けるも同樣で御座います其間には物價等も聞きしり母は儉約の大切なる事も實行と言葉を以て教ふればそろ〳〵人心づくより知らず〳〵家事を覺へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ます其爲に貴重の時間を費さずして既に十六七歲に及び家を離れて中學大學に入る頃には人の手を待たずして家事の操廻しの出來るは通常です又大中學に入るの後は暑中休日中に熟錬致します幼き時より手を拱きぶら〳〵する風を養ひ居られば滊車彼等を郷里に運び馬車家門に止まり家族の歡迎手を取て室に入るや直に母さ共に喜び語らひつゝ食事の手傳を致しますさなくば編物等を取出して母子姉妹四方山の話の内にも手を動かし數分も無益に時を費しません親の命じて彼れを强てなさしむるにあらず幼時の習慣が斯くかひ〳〵敷働かしむるのさ存ます一ヶ年修學中には元より疲れるは當然なれば休息は必要ですが此休息さ申は怠惰さ申事さ間違いない樣にせねばなりません當國の親の務むるは壯年の子女をば成丈多忙の中に置く事です何故なれば種々の悪しき習慣や怠惰のくせは暇過ぎるより來ります學生の終年の勞れは家事の多忙なるに癒へ數週の後には再び爽快にして歸校致します私の朋友中の或人には申ます「母は年中家事にいそがわしければ暑中休日中は私が凡てをなして母に休息の機を與へます」私は見聞する處を細かに認め能はぬは遺憾なれども文才無の致す處せん方なし右に述べし如く當國の女子教育てふうちには家政科さ他の事さ別に隔りありません又其爲に貴き歲月を過す事を致しません母の許に居る間に知らず〳〵覺へ熟錬致ます大學などに入學なさしめて家政法を學ばしむる等の考へを持つ親は更に御座いませんいかに立派なる組織に此家政科を學校内に設くさも家に於て母の許にて覺ふる如き實際的の修業は迚も出來ません

私は屢々朋友の宅に招かれ種々家庭教育の有樣を見るにつけては私の幼き時の事を思出して比較して見る事がおり〳〵御座います私の母は封建時代の婦人に似ず隨分改進的の人物で御座いました世の變遷等も豫め覺り一角子女の教育にも力を盡す積で御座いました併し古來の習慣も大に存じ居りしさ存じます私は十ばかりの頃母が病にかゝりし迄は皿鉢一つも洗つた事はなかりし樣に存ます朝飯の仕度畧さゝのひし頃に起き出食事終れば學校用の器具を携へ家を出ました學校より歸りますさ母の前にて其日學びし事を復習致し其あさは門前に出てゝ朋友さ遊ぶか又は家の内にて何かごそ〳〵詰らない事の爲に貴き數時間を費してしまいました母は私が讀書して居るを見るか或は机に向つて何かして居るを知りますならば決して用事を云ひつけませなかつたそれにつけこんで私の姉達が家事の手傳をいひつけますさ「今勉强して居ます」さ申がよい旨ぬけで御座いました夫故十ばかり迄何一つも家事の用には立ちませなんだ母は大病にかゝりし後は多分姉の手傳をなする樣になりました其時は小なる事も大變重荷一方よりは手早の姉は私の鈍きを責めましても重き手足は一向に働らきませんでした私の知己の中にも二種の母親を見受けし事を記臆致し居ました一は毎日〳〵子供を追ひ使ふて學校にて學びし科目の復習さへもろく〳〵なさしめぬ人一方には「今の世には何でも學問させねばならぬ他の事はいつでも敎へられる」さて家事の手傳などは十四五歲になる迄は無頓着夫故其結果は高等學校も卒業して他方の女學校に入校せんさ望むもまづ數年間家に於て家事を覺ゑさせねばならぬさ其爲に貴重の年月を其のみに過さすの不幸に逢ますそして其一ヶ年二ヶ年家事一方に働かせたさて多年幼き時より見習ゐつゝお皿を一つゝ臺所に運ばんさせば母は面倒らしく苦き顏して姉娘を呼び他の間に連れ行かしむ無理になしたがればボンさ一つ大切なる頭を打つか或は恐ろしき顏して叱り付け小供の心をそこれ其上よき修業の時を失はしめます親公達が子供の生長の早きに驚きなさる如く歲月は知らぬ間に過行きます「アゝ面倒しい邪魔になる大きくなりたらぢきに覺へられる故彼方に行け」さ申て居ります内に娘は用に立たぬ人さなります女學校の夏休中こそ家政に熟錬する時さ存します女學校に參る前家のうちに居りし時さ違ひ世事も幾分か廣く知りて參り且學術上より得る處の智惠もこれさ實際上に施し炊事にも料理にも心をくばりて滋養品を用ゐ又消化し安き樣に料理し最少の金を投して最馳走の出來る樣など出來得る丈け發明して見る等は最面白くそしてこれこそ眞實の女子教育かさ存ます然るに多くのお孃さんはそんな事は面倒しい誰某の詩を此夏は讀度い或は何科を勉强するなご口には申も實はぶら〳〵さ貴重の時を費すあり其上母父さ姑息の愛にて久しぶりに折角歸り來りたる娘を働かしむるは可愛さ口には云わぬも此考へは心に滿ち自分の年中の勞れも打忘れて毎に〳〵彼れこれさ馳走して食させるもこれをも娘に手傳わせず自分の手にて盡くなし娘の爲めに最も好き熟錬なさしむべき機會を失はしめますそして娘が女學校を卒業して歸り緣付もする時さなるさ母公は狂氣の如く叱言だら〳〵「これでも女學校の卒業生か」さ娘を日夜に責むるのみならず恩愛深き女學校の教師に對して不足を訴へ自分の責任を責任さ思はずみだりに他人を責め詈りなさる母公を隨分見受けます幸か不幸か今日では世間の人々が多くは此の母公さ同じ考へを以て居ます故に各々口を揃へて此母公の御說を贊成致ま

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

す去ながら心ある人は心竊かに笑ふもあり歎ずる事もあるべしと存ます願くは世の母公達ちが自分の責任をお忘れなく萬事を女學校の教育法に任せずに自分の手にて此家庭教育てふものは充分御施し被成事を願ます幼時物事を覺ゑたがる頃には面到しいとかぢれつたいとか云て叱りのけられ小學年齢遊びに心うばわるゝ頃には母公は無頓着に遊びに耽らせ家を離れて女學校に入れずほや〳〵ともてはやさるゝ暑中の休み中に怠惰てふ悪魔に園ませ置きそして俄かに責られ批評さるゝは娘の身に取ては如何にも迷惑千万と存ます併し人は既に十四五歳にもなりますれば一個獨立の思想を持つものなれど只に親公のみを責ません御嬢さん逹御自分もよく御注意被成はづと存ます人は千人万人同じ樣に生き居られば或る御嬢さんは炊事やら洗濯其他家を持つ人のなすべき事々を面白しと好んでなさるお方も御座いませうが又お好なさらぬお方も御座いませう夫故將來御一身の向 life work としてお撰び被成は御勝手にて御座いますが併し女と生れて家持ちの出來ぬは隨分恥かしい事と存ます此考へは只に日本のみならず米國に於ても仝樣で御座います此暑休み中私が招かれて居ます家には三人の娘が御座いますが長女三四週間前に結婚して仝家に在らず三女は他に在て大學に入るべき資金を貯つゝ居ます二女は私の校友にて明年は大學を卒業致ます此娘は家持ちする事はあまり好まぬ方ですが併し暑中母親が留主なれば萬事一人でなして居ます家内の清潔炊事に至る迄母親の家に在りし時と異ならざるのみならず一層に順序づきて居ます此娘が私の學び居る大學に參りしより三年間は常に化學室にて教師の助をなすが受持の働故に他の多くの生徒の樣に臺所の働らき等は少しもありません又此娘さんが大學に參る前は小學校の教員となりて學資金を貯ゑしを知れば私が日本の家庭教育の有樣より考ふる時には家持の修業なせし時は少しもなき樣に思われます故此暑中の立派なるお手際は如何にも不思議に思われます併しこれ皆幼き時よりの見習と前に申せし如く女の生れて既に廿歳ともなりて家持の出來ぬと申は恥ぢやと申觀念常に心に滿ち居ます故出來得る丈盡す精神の結果は此暑の house keeping にあられました事と存ます當國にては家持の修業などほと〳〵しく口にするは母も娘も好まぬ事てす何故なれば此必要の起るは母親が子女の家庭教育を怠りたる結果なる故です只今申せし私の朋友と樣々家事万端一人の手にてなさればならぬ場合では勉學の時なきかと申に否々同孃は入學試驗を受殘したるが爲に古代の歷史並に數學の獨乙書とを必らず此暑休中に學ぶの必要あれど毎日午後數時間は勉強し居れり順序を立てゝ物事をなす時は案外に捗るものと存ます。

○徳富猪一郎氏孤兒院への書狀

左の一書、敬服すべく、贊美すべきもの、岡山孤兒院月報第二號に見へたるにより、左に轉載す(編者、白)。

來た拜顏の樂みを得ず候得共尊兄の事業に就ては淺からぬ同情を以て注意罷在候最早秋風身にしむ時節と相成り尊兄蒲柳之質如何唯だ上天の健康を尊兄に給ひ尊兄が負擔する事業をして完全せしめ給ふを只管熱祈する所に候却說今八月廿四日の午后九時頃友弟健次郎氏と月影を踏んで民友社より氷川町僑居に歸り門前の郵筒を探り基督教新聞を得直ちに食堂の卓上に於て瞥見致候處貴院の日誌を讀み百感中より來りて何んとなく切なる情に禁へ不申候間思付候まゝ下文の通り申入候小生儀最近兩三月徒歩にて相濟む場合には可成徒歩せんと欲し人力車に乘る費用を徒歩にて得らるゝ丈けは五錢十錢の差別なくその折々の勘定にて直ちに右を貯蓄珠(陶器にて製したる寶珠なり)に入れ置き候もの有之候間直ちに右を簞笥より取り出し見候處少しは手答へを覺へ候間直ちに右を差出す事に相決し候尤も此の三週間は徒歩したるに係らず貯蓄するを相怠り候間記臆中より出來得る丈けは精算し只今右の金額をも投入致し置き候

元來右は本年の基督降誕祭に家の小兒に何んぞ贈遣せんと兼て心懸居候得共寧ろ家の小兒の名によりて尊兄保管の小さき憐れなる小兒逹に贈遣するとは本意と存候間十二月を待たず感の生じたるまゝ差出候金額は惣計幾何あるか御落掌の上査收下され度候九牛の一毛故に尊兄の事業を裨補するに足らずと雖とも滔々たる万丈紅塵の裡に於て猛雨を衝き熱天を凌き小生が健脚徒歩したるの報酬而して兄の至誠に感じたる微志幸に御存取下され何になりとも經營のたしに相成候はゝ本望不過之候家の小兒は無心に候得共小兒の母及び祖父母は如何に嬉しがり可申哉小生も明日より豆子に參り該地に在る兩親荊妻への佳話を得たりと心竊かに相悅び申候情緒萬縷紙外に御看取可被下候早々不一

八月二十四日夜午后十時

月影水の如く蟲聲斷續

猪一郎

石井大兄貴下

右の寄附金は貯蓄器のまゝ幸便に托し可差出候間左樣御承知可爲下候

他の役員諸氏にもよろしく申上候

若し寄附者の名籍ならば

徳富逸子

徳富多太雄

徳富萬熊

三人共に小生の小兒に候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

ヘンレー、ソモルセット夫人（二）

初ひ陣と其勝利

隱退靜養の後ち、大ひに悟る所ろあり。殊に彼の不思議なる靈の聲の響ち日を經るも消えず。正に、神ありとして活動するの外なしとて、着々、實行の途に上りたり。

最初は、貧民の救濟に力を盡したれど、一時救ひ與へて、更に一時の究あり、到底其根本より救はざれば詮なしと知り、且つ根本の病は、多く飲酒の弊にありと認ためて、早く禁酒事業に眼に注ぎたり。

最初の禁酒演説とも云ふべきは、城邊の一小村にて、小さき學校の舍内に、僅かの小作人を集めて演述したることにてありき。其時、語り了へて、直ちに自から盟約を示し、禁酒會員の名簿に記入し聽衆を促がしければ、小作人みな續々として入會し、茲に初めて禁酒會出來たり。

所ろ／＼小さき集まりにて演説したるに、評判いよ／＼高く、東西より是非にと招かるゝに至りき。ことに、母親會と云ふをも催ふし、母たる人の心得を説き聞かすことを催ふせしかば、いよ／＼忙がしかりき。斯て、追々に多數の聽手に對して、公けに演説することとなりき。夫人の聲は、玲瓏として清音天玉を轉ずるが如く、其響を聞くのみにて既に感に迫るの心地するものを、夫人は切りに聲の侶律と演説の工夫とに力を盡し、聽衆間に一媺を交へ、聲調低く、下る都度、白ハンケチを振らせて合圖せしめ、以て戒しめとするなど、用意周到なり。

斯て、夫人は久しからず、著名の公同演説者となり、遊説きわめて、忙はしきに、而も其領内の小作人を、勞わり、且つ敎ゆるの保護亦甚はだ親切なりき。

●秀人よく秀人を知る

安息日の朝たは、いと靜かに送りて、午后は、其忠實なる主婦某と、小作人改善の工夫を打語らふことを例と爲せしに、或る雨ふる日曜日、四面倚さら靜かにして、細話の興一入なるべき時、ふと主婦の机上に青表紙の小冊子あるを取上げ、標

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

題を見るに、「麗わしき十九歳」とありて、かのフランセス、ウイラードが、其妹メレーの死せしを懐ふ追告の書にてありける、則はち、一二頁を讀み出して、眼頭たゞ、流暢なる、秀妙なる、鋭麗なる文章の流れ〳〵て、下る率直異采の人、言ひがたき餘裕と深き歎きの心を滿々と漂よわす樣姿に見とれ、一冊を讀み了るまで、高き息をも吐かざりき。

此時よりして、ウイラードを慕ふこと一と方ならず、後ち七年、去々年米國に渡行したるは、必竟此の愛慕の念切なるの致す所ろたり。一見舊識の如く、理想、現實にせられて、醉へるが如く、敬慕いよ〳〵止まず。彼の女丈夫たる母メレーは當時尚ほ安息廬（レスト、カッテージ）にあり。ソーモルセット夫人、此安息廬に入りて、禁酒事業の最上を味わひ、母メレーとの交り亦至愛を盡して、米合衆國は、其ホームの如くなりぬ。且や、米國人は、昔し、ラ、フェットを歡迎したる以來に無き熱情を以て、夫人を歡迎したり。メイン州より、カリフホーニア州に至るまで、皆一齊に之を歡迎したり。夫人の才と德とを味はふとに於ては、米國は、夫人の本國よりも尚更に多く本國の如くなりき。

時報

皇室

●皇女の御參內　去る三十日は、常宮昌子內親王殿下の御誕辰に相當せるを以て、殿下には午前十時御參內、兩陛下に御對顏の上同十一時還啓、それより青山御所へも御參內あらせられたり、

學校、教育

●實業補習學校　及び徒弟學校施設法の議案は、大日本教育會に於て去る十日午後より開會して種々議定する所ありしと、前者は實業家の子弟及徒弟に實業上必須なる智識と學理とを授け以て直接に之を實業上に應用せしむるを以て目的とし、後者は純ら職工（若しくは商業者）を養成するもの即ち職工（若しくは商人）として必要なる知識と實業とを併せ敎ふるもの、（職業學校）と職工（一般の勞働者幷に商人の子弟及徒弟）の子弟及徒弟にして普通の國民教育を受くる能はざるものに夜間若しくは休日等を以て其業務に必要なる普通の讀書算を敎ゆるの二種なり。而して施設法の輕便なるものは、後者の徒弟學校なり、その施設法要領は去る八日の「大日本教育新聞」に明かなり。

●實業補習學校の嚆矢　と題し「東京日々」は去る六日より八日に至る紙上に於て、學科課目、分級進級、從前と現在の生徒、維持經濟、實科經濟より卒業成績、將來の計畫に至るまで精しく記載せり、

●仙臺女學校　衛生、生理教師の雇聘　仙臺市花京院通十一番地士族阿部貞吾氏外四名の設置に係る私立仙臺女學校にては、今度衛生、生理教師として佛國婦人ウーフロジー女を雇聘せしと云ふ、

●仙臺の東北女子實業傳習所と羽生正氏　東北女子實業學科傳習所は、羽生正氏等の設立にして追々生徒も增加し盛運に赴く由なれど、氏等は元より營利の爲に與せしものにあらざれば、鞠躬盡力益々女子教育を熾にするの希望にて、一金の報酬も受けず却て私財を擲て從事しつゝある由（以上二件、七日、大日本教育）

●工女の教育　に就て三輪恕鐵氏の記する所によれば、上州の〇〇社は嘗に普通の製絲家と異なるのみならず、同業社會の弊風と工女の品性とを矯正するを以て第一の目的となし居るが故に、社內も凡て平民主義にて他社に勝るものありと雖も、工女の亂行は言語同斷なり、氏が在毛五ヶ年の經驗によれは年齡漸く十七八の工女每月七八圓の給料を得て、父母に贈りしもの二十七八までは、破落工女として四方の製絲場を荒し廻り遂には左の如きものとなる

甲　日雇稼の妻　乙　賭博連の妻妾

丙 ごろつきの妾　丁 賣淫婦

是は唯上州一地方に限るにあらず、信州武州野州邊より上州に來り居る工女をも含むさいふ、而して其工女の父母は概れ娘の贈金ある爲め家業を執らず、朝夕酒に身をやつし、給料は常に前借のみ、されば上州富岡邊にては、自重心ある少女は工女さならず子女を愛するものは工女さなし得ず、今日に至ては賢良の工女を求むるの途なし故に、工女の教育は極めて切要なるものなり云々（六日、七日、國民）

●女子部の存廢　德嶋縣會議員の中、師範學校女子部を全廢せんさ欲するものあり、其理由さする所は縣下教育界の現況上、女教員の必要なし、或は不經濟なりなどゝいふ（三日、德島日々）

●大坂工業學校　文部省は第五議會の協贊を經て大坂府民が兼れて熱望する一の工業學校を創立するの計畫あり、其學科の如きは關西實業に適應のものを選びその程度は東京工業學校に比して稍卑近さなす筈なりさいふ、

●女子部生徒修學旅行　岡山縣尋常師範學校女子部生徒一同は去る二十八日兒島灣濱邊迄旅行し、標本に供する爲め全灣にて種々の貝類を拾ひ且魚類を捕りたりさいふ

●女兒教育の改良　富山縣下新川郡泊町育英小學校にては、女兒の就學生極めて少なかりしが、昨年の秋縣知事巡回の節、同町長は教育上種々の方針を質問の末女兒に限り裁縫及修身科を合せ一週一日の時間さなし、座作進退より裁縫に至るまで教授せしに、資產中等以下の生徒は裁縫すべき品物に乏しきより洗濯科を附隨せしむるの必要を生じ校下父兄も喜び一方ならず目下女兒就學生の員數は、殆んさ男生の七部以上に達したりさいふ（廿一日、富山）

●女教授の學事視察　女子高等師範學校助教授福田米子及同校訓導江口あくりの二子は去月廿六日仙臺へ至り、尋常師範學校の男女子部各教室寄宿舍並びに附屬校等を參觀されしさ

●集　會

●講話會　名古屋市東片端町なる名古屋淸流女學校にては、去る廿八日例月の講話會を開きたり

●宮城女學校の文學會　仙臺市東三番町なる同校にては去る六日文學會を開きたり

●重野文學博士女學生に告く　同博士は過日石川縣尋常師範學校に臨みて講演する所ありたる由なるが其女學生に告けたる中の一二節を左に記載せんに

予は更に女生徒諸子に向て一言せざるべからず、元來今の女子に於ける一大欠點は、淑德の大に欠乏したる事なり、假令ば生開けに開け其素行の突飛なるが如きは、尤も甚だしき弊風なりさす、夫の紫式部は那の如き學者にてありながら一向學者ぶらざるのみか、勉めて讀書さへ充分出來ぬ樣に見せかけしも世上は傳へて其博學なるを賞贊せしかば、式部は「自分は常に讀書することを下女にさへ知らさぬ位なるに、斯かる評判あるに至りしさは」さ嘆きたり、那の如き人にてすら箇樣に謙遜にてありしに、今の女子は之れさ全く正反對なり、是れ固より封建時代に於て餘り女子を抑制したるに過き、御維新以來に至り俄かに抑制の寬になりしより自然さ爰に至りしものならん」

封建時代に於て女子の再縁するものは失節させるなどは甚だ束縛し過ぎ（男子さの權衡上）たるものにして人情に戻りたる事なり、昔古賀洞庵先生は螢範新論なる一書を著して餘りに女子を抑制し過ぎることを論じたるが、予は實に洞庵先生の目の見えたるに感せり、然れさも封建時代の方は却て今日よりも女子に淑德美風多し、今や女子の抑制俄に解けたるさ共に反動の勢ひより、前陳の如く淑德に欠くる所あるは、如何にも嘆かはしき事なれば女學生諸子は此に留意せんことを望む云々

●伊澤修二氏　同氏は小學教育費國庫補助の挨に贊同を求めん爲め、伊藤總理大臣を始め近衞公爵板垣伯大隈伯其他有名なる政治家等に近來頻に面會して同補助のことを談するさ聞く

●長崎市高等女學校設置說　同地方に於ては近來稍女子教育問題に着眼するに至り、昨年の如きは彼の撰擧干涉問題のさわしからざりせば、此問題に付き當路者の意見を發表せられ縣會の議題さなりしものならん。本年に至りては女子教育に熱心なる有志者も相見ゆ云々さ同市の安部井氏の通信に見ゆ

●個　人

●女生徒の龜鑑　茨城縣久慈郡坂本村大字石名坂大塚うたの二女さめは、全地尋常小學校の生徒なるが入學以來風雨寒暑の厭ひなく、登校勉强し優等賞を受くること數々、且つ母及び姉に事へて孝悌其進退動作一さして、生徒は勿論衆人の模範さなるべき廉尠からざるに付、村會に於て議決の上同校內にてさめに賞與授與式を行ひたるよし、

●女丈夫　長崎市內某町に女生あり能く父母に事へ妹に慈なり、齡方に二十有三四品行嚴肅にして衣髮を飾らず、父の遺命さ稱して專ら醫書を硏究す、然れさも業未だ成らずして家道頗ふる窮し書を購ふの資なし、爲めに一二知己の醫學生に就て之を借覽す之を家に携ふるを得されば則ち其家に就きて借覽す、今や他事を排棄して本年第二回醫術試驗の準備に汲々たりさ云ふ

●淑女　鳥取縣會見郡法勝寺村奈喜良某の妻タツ女（十七年）は同郡大和村大字佐陀村井上鐵藏の長女にて、今より四年前某に嫁きしが幼き時より能く父母に事へ小學校に入りては、勉學衆に超へ品行も正しく奈喜良方へ嫁きて後は、舅姑に事ふること父母に事ふるが如く一家和氣靄然さして羨まぬものさてはなしさぞ（以上三件、大日本教育）

●女子師範學校長の弄法　鳥取縣女子師範學校長は、さきに何等かの理由にて生徒中江何某を放逐し、妙齡の處女をして終生を誤らしめしのみならず同件の爲め同校生徒に二週間の禁足を命じ父母親戚等より發送せる書類すら舍監立會の上ならでは開封せしめざるより、種々の不便を來すこと少なからされば山瀨幸人氏は知事に向て嚴しき談判をなすの都合なりさ（九、二十一日、宮崎）

●婦女の龜鑑　出雲國大原郡神原村毛利増藏妻池内きくは平素夫に事へて貞節を竭し、殊に其罹病以來十年一日の如く朝夕看護に怠りなく、近郷の者誰一人として嘆稱せざるはなかりしが、遂に其筋の聞知する所となり去月廿五日島根縣廳より金二圓を下賜されたり(四日、國會)

●黒田伯爵夫人の迷惑　先頃府下の或る新聞は黒田伯夫人の身の上に何か不慮の椿事ありたるが如くに記し、又地方の某新聞には伯爵夫人は自害したり、殺害せられたりなんど記載せしが孰れも虚妄の說、元來同夫人の疾病に罹られたるは去月十六七日頃の事なりしが同廿日頃には殆んど痛患を除き邸内の散歩をなすに至りたれば、其後の容態には異狀なきを知るへし、玆に黒田家にては知己緣者の向々より其實否を訪問せられ殊の外迷惑なりといふ(一日、東京日日)

風紀

●居留地の風紀取締　神奈川縣警部長は清國幷に佛國領事に照會の上、去廿六日居留地百五十一番館なる支那人の賭場二ヶ所にて博徒九人を取押へ、翌廿七日に百八十八番館佛人所有家屋にて博徒三名を取押へたる由

●風俗壞亂的蠻習　伊豫國宇摩郡地方には古來農作物の盜人を防ぐ爲め、各村とも若物をして夜番せしめ若し畑盜人を捕ふれば村内を丸課になし四遣せしむる罰法なるが、此程の事とか或村の夜番の若者は、白歯の娘が闇を便り忍び來り琉球芋を盜み去らんとするを捕ひ古法に從ひ、村内を匍匐せしめ太皷を鳴らして囃し歩きたりといふ果して眞なるや否や(一日、自由)

●福井縣の娼妓貸座數　今度同縣令第四十八號を以て貸座敷娼妓取締規則を改正し、大に從前に比して嚴密を加へ(同時に賦金額を改定し、貸座數は一戸に付一ヶ月金三圓娼妓は一人に付一ヶ月一圓七十五錢と定めたり、而して賦金の豫算は一万千百廿九圓二十五錢にして内貸座敷賦金は五千四百六十三圓廿五錢娼妓賦金五千六百六十六圓なりといふ(六日、朝野)

●桑港の廢娼同盟　大演說會は去月二日の夜米國桑港に於て開かる、聽衆無慮六百餘名ありしといふ尚同會にてはその後に引續き運動する由

●外權内侵錄　と題し去月末より「日本」は橫濱居留地の淫風の視察を記述し始めたり、記載の事項は種々ありと雖も茶婦屋と洋妾に就て記する所なか〳〵にくわしく左に之を抄出す

茶婦屋の所在　彼の賑町久方町雲井町堀端筋元町石川町等は淫風醜俗褻屋見るに堪へず、されど是等の多分は支那人幷に最下等なる白人の獸慾的需用を充すと共に本邦の破落戸車夫馬丁等をも拒まざるものなり、されば單に白人のみを顧客とする所は別に優なるものあるなり、即ち武州久良岐郡戸太村、中村、根岸村等は茶婦屋の巢窟なり、此所彼所の門前には銘酒、休息所、玉突、飲食休憩の文字あり、家屋は和洋半ばし若しくは洋風を摸す、是等茶婦屋の數は白人の要用と共に増加し、右に云へる村々のみにても現に五十餘戸に達し戸口二三の白鬼を蓄へざるなしと、

茶婦屋雑居の外人　茶婦屋内に止宿し我風俗を壞亂する外人少なしとせず、(「日本」は十數の實例を掲載せり就て見るべし)

●洋妾の末路　元來白人なるもの彼等同士の外には人情も義理もなきものなり、彼等の日本に在るは唯た利を射るが爲め而已利外には殆んど同情同感なるものあることなし、彼等の不人情は彼等が洋妾に對するの所置如何を觀ても亦知るべきなり、兎にも角にも主人となり亦た妾となる始めより其間の交情密なるものあるによる一方の若し逆境苦界に沈むとあらば互に相助け相救ふの情は、是れ自然に湧出し來るべきにあらずや、此間の消息は苟も人情あるもの誰か又た自知せざるものあらんや、然るに彼れ白人なるもの其關係の頗る親密なるべき洋妾の困厄に陷るときは啻に之を救はざる而已ならず、却て之を捨てゝ顧みず以て面倒の已れに及ばんとを恐る、不人情も亦た是に至りては其極に達せるものと謂ふべきなり、其遺棄するの場合は實に左の中に在りと聞く、

(第一)洋妾の重病に罹るとき

(第二)洋妾の姙娠したるとき

容貌衰へたるが爲め若くは歸國せんが爲め若くは蓄妾の不可を悟りたるが爲めにして其關係を絶つ、是或は可なるものあらん又た恕すべきものも是れあらん、然れども愛情の嘗て變するとなく交親の嘗て冷かなるとなくして一朝懷胎と重患とに臨むときは、斷々然姙娠婦と病患婦とを棄去りて顧さるなり、是れ果して人情の能く忍ふ所ならんや、然り白人は其同人種間には固より之を忍ばざるなり、而して他人種に對するときは全く其趣を異にし同感同情なるもの更に是れあるなし故に彼等仲間に忍びさるとを我に對しては忍ぶなり、吾輩は洋妾にして姙娠の爲め病氣の爲め全く外人より遺棄せられ現下困難し、在る者數人に會ふ其談する所を聽て顰蹙せり(日本)

服裝

●女學生羽織を禁ぜらる　新潟縣尋常師範學校にては此程より女生徒に對して羽織を着ることを嚴禁したり、其理由は羽織は女子の禮服にあらずといふにあり、中には折角用意したるさへありしに、此嚴令の爲めに更らに衣服を新調するなど父兄の迷惑一方ならずといふ

●師範學校女子部生徒服裝の改正　宮城縣尋常師範學校女子部生徒の服裝は、他の府縣と同じく從來洋風仕立のものを着せしことなりしが、過日改正されたる式に倣ふて日本服を着用さるゝとなりたり、着物は木綿にて各自適宜の模樣地にて仕立て、常の袴は從來用ひ來りたる禮服の織地なりといふ

片々

●兵庫縣産婆現在員　兵庫縣に於ける昨二十五年十二月三十一日現在産婆營業人員は、攝津國三百七十一人、播磨國千七百四十八人、但馬國二百六十七人、丹波國三百六十二人、淡路國七十人計二千八百十八人内、内務省免許を得しもの攝津國神戸市六人、播磨國姫路市一人計七人にして之を前年に比すれば總計四十四人を減じ内務省の免許を得し者五人を增せり(九月二十八日、官報)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●**慈善美術展覽會**　東京慈惠醫院施療資金募集の爲め同會員は、每年一回慈善會を開設し寄附物品を販賣し、其收益を以て該資に充てられしが本年は之に代ゆるに來る廿三日より仝十九日迄、同院内に於て美術展覽會を催す由、抑も同院の會員方は華族貴顯紳士紳商の夫人令娘方にて組織せられたる事故、其珍藏の美術品も優逸の品多く加之貴婦人方の幹旋にて優等の品を廣く蒐集せられし事なれば、定めて稀世の陳列品あるべく殊に當時の諸工名家數氏出席ありて席上繪畫揮毫と、乾谷氏陶器即製の技術を觀覽に供し、該製術は來觀者の自記せし書畵を其儘目前にて燒き顯す由なれば、一層其趣味あることならん、又休憩所には多數の挿花を陳列し觀覽に供する由なり、

●**富岡製絲場**　群馬縣下なる富岡製絲場は既に三井高保氏の落札する所となりしが去る一日勅令第百六號を以て同製絲場の官制を廢止せられ、所長速水氏、枝手、及び屬官等は孰れも非職となりしも三百四十餘名の女工は同所と共に三井氏へ引渡されたりといふ(五日、國會)

●**製絲工女**　先頃より國民新聞紙上に「生產國としての兩野」と題し種々有益なる事項を掲載し來れり、其中製絲工女に就て記したるものあり、左に其一二節を轉載せん

製絲工女に三種有之候。自家の繭を以て製絲するもの其一、他人の繭を以て自家の住所に在りて製絲するもの即ち出釜其二、他人の家に雇はれ行きて製絲するもの其三。

其一は多く人の妻若くは娘等が內職に之をなすものにて、自家の作りし繭或は市場より買來りし繭を絲に挽き候までに御座候。

其二は同じく細君娘などの內職として製絲するものに候得ども、大製絲家より繭を分たれて之を製絲し自家は唯其勞働の賃金をのみ取るものに候。

其三は近隣の子女にして夏月だけ雇れ行き以て絲挽を事とするものも有之候得共、此は暫く置き、他に五年七年の年季を以て雇込まるゝもの有之候。此の工女こそ我等が今特に一項を設けて一論せんと欲する所のものに御座候。云々

元來出稼工女として前橋邊へ入り込み候は、越後五分、越中能登各二分、殘り一分は千葉茨城等のものに候。而して年齡は十一二歲より十八九歲までにて、殊に十三四歲のものは雇主の最も歡迎する所に御座候。云々(國民)

海　外

●**日本婦人米國大學に入る**　米國に在留する妙齡の二女子此程ミシガン大學に入校したりといふ

●**米國に於ける本邦女子の問題**　近着の米國通信によれば今度「グリンプス、オフ、ガ、アンフアミリアル、ジヤパン」及び「日本の內部」といふ二書をホートンなるシツフリン會社より出版せり、前者はラツカヂチ、ヒヤルン氏の著にして、後者はアリス、エム、ブーコン孃の著に係ると、或は彼の田村氏の「日本の花嫁」に類するものにてはなきや(七日、讀賣)

通　信

◎米國へ留學洋行せし人の通信

米國婦人奬學金候補者の試驗に及第し去七月當地出發して米國ブレンマー女子大學に向つて洋行したる松田道子女史が、七月三十日ワシントンより發して父兄友人に送りたる書信の大畧左の如し。

十二日間の航海實に面白く覺へ候天氣も好く見るもの新しくして「二日間高波の時偶ま船醉ひせしも」いつも〳〵、ミス、シエフター、ミス、パーターと、デツタなかけづり廻り居候

ミス、パーターは健康の人に非る故四日間程は船に醉ふとには非れども室にやすみ居られし私の佛語の先生のミス、ヘレン、アナンは、どうも善き人に御座候船客の中でも一番すきにて御座候每日佛語をおそはり候ブレンマー大學流が稽古の仕方は充分にむづかしく、ミスシエフターは小供、小學校の生徒を教へるように一二三四‥を教へるのにいたしても十度も二十度も操かへさせ自分もついて云ふ事なれどミス、アンナのは音の事英佛飜譯の事又詩の諳誦等充分下稽古に骨折れ一時間餘の稽古にわたくしは殆と半日以上の自修を要し候併しミス、アンナの鈴のような聲とパツチリした眼と親切なエツキスプレツシヨンのある顏など風采などが至極すきなのでよく下稽古を致し大抵ほめられ申候、かく佛語の稽古にいそが

音

はしく又之もブレンマーの人なりしミス、パトナムが英語のプロナオンシエーシヨンを教へやるとて每日英書を讀ませ自分は他をむきて意味をわかろようにためし(これはブレンマーにて教師は書物を持たず廣き教場にて生徒の讀むを聞く事あるため)これのため一時間餘の時を費す故殆どホームシツクも起らず何も考へず讀書とかけづり廻る事と夫れから面白きはなしとにて送り申候船の中には面白き人澤山有之候スペニス人も居れば印度の僧も佛人も英人も獨乙もそうして中には世界の國々を巡覽した人も數多ありそれ等の人の話を聞く事は面白く御座候皆

甲板

々日本を小さき人氣のやさしき山水の奇麗な國と申候、二夜ダンシングがデツクにて有之候わたくしも始めて西洋の踊を見申候船長も船醫も若き人も老人もおどり申候品のわるいお婆さんのおどりより矢張若ひ人のおどりが見ばへよく候しかし皆々のうちわたくしはミス、エス、キンボルと云ふ婦人とミス、アナンが一番奇麗と覺へ候ミス、アナンは船中で一番の美人と存候衣服の嗜好がよろしく候ミス、

踊

アナンは妹のアリスとミス、エス、アナンと三人にて殆ど二年間の旅行を企てビクトリヤ上陸の後アラスカ行へ乘船いたし候、ミス、ポーターもミス、シヤフターもおどり不申候此時は丁度ミス、ポーターの病氣の時にて御座候故にて候日曜日には十一時より船長が聖書を讀み祈禱等いたして日曜の儀式有之候終日靜に御座候しかし人は樣々にて日曜日にも矢張カードを弄ぶ人も有之候わたくしは日本の小說

日曜の讀本

を日本の裁判官栗塚氏の夫人より借り讀み居り候ところ夫れはサンデーリーデン

ゲに非ずとてミス、シエフターに叱られ申候私くしは一の日曜日にはズラマンドのグレーテストシングを讀み他の日曜日にはロード、フォントローイを讀み申候金、土、月とゲーム（遊戯）の遊び有之候小さき手桶に輪を入れる事など、數字のかきある板上に圓板を載せる事など色々有之一人のレデー（淑女）に一人のゼントルメン（紳士）附添ひこのゼントルメンはレデーを吹けるために勝ちしレデーは他の勝ちしレデーと又勝敗を決しすべてに勝ちたる者が褒美を得るにて即ち輪のゲームに一人、圓板のゲームに一人、何々に一人となるにて私くしも、ミス、セフターもパターも皆々試み申候ミス、セフターは一つの遊戯に勝ち香水を二瓶貰ひ申候夫れはく面白く此ゲームのありし日は自分はまけしもシエフターが勝てばよいと思ひポーターとかけづり廻りシエフターの遊戯を見張りフレンチも何も手につかず、今日はゲームにて稽古はベードレッスン（出來わるし）なるべしと歎ぜし時ミス、アンナがソレデはハラデー（やすみ）にしやうと申せし時はそれは又一層うれしくすぐに手に携へし書物も室に投じて又々ポーターとかけまわり愉快に御座候船のStewardessなるミス、エス、フイラーが夫れは又親切な人にていつでも朝起しに廻り肉も切りて呉れ菓物も取りて呉れ子供のようにして呼び廻り候、此人は悲しき歴史ある人にて夫に死別し唯の一人にて船旅はからだの爲よからんと醫者申せし故遂にこのエンプレス、オフ、インデヤのスチーワーデスになり生計を營み申候隨分財產ありしも夫の數年に渡る病氣のため悉く消費し親類の人招きしも自立の方好むとにて今より働き居る事に御座候、此人が決して忘れてはならぬきつと寫眞を呉れと申して自らわたくしの手帖の中にSend Polito to Mrs. Pheeler:・・・・ とした、め申候ミス、アナンはあなたは友達が多くて書記を一人雇はなければならぬと申候

さきに鳥渡かきし栗塚夫人は三十三の若婦人にてよき人に御座候氏は弱く大低始のうちは室に横はり居られ申候わたくしは度々參り色々話し申候二三日たつとそろく二人にて日本の料理たべたくなり日本の茶などツクダニ等日本の菓子等食し御飯をたき貰ひツクダニにて食べし時は隨分よろしく覺へ候併しこれは支那の御飯にて煮樣もかたくわたくしは嫌ひにて御座候

航海中の氣候ことに寒く袷に綿入羽織の着服始より終りまでそれにショーローを纒ひ申候ピクトリヤ着船の朝洋服をつけ申候洋服も靴も今は好きにて御座候（活潑に御座候なり）ピクトリヤに今週火曜朝八時に着して當地に金曜日午前十一時頃着いたし候此間には大歴史有之候、先づ面白かりし事は當着の午後ピクトリヤにてミス、シエフター、ミス、ポーターと共にウライドをこゝろみ候事は實にたのしく本牧のような海邊也又駒遊ぶ野原や數楷高き家のある市街や等馬車にて通行する事は實に面白く御座候只今菓物には櫻の實、林檎、杏、桃、蜜柑、等數多有之候、外のものは兎も角も櫻の實はめづらしく御座候しかし何もかも高價に御座候一夜の宿一時間の馬車何もかも數圓を要す米國物價日本に比して十倍とは正に當れり

偖てかくの如き事はさきにかきし大歴史にはかゝはらず今より外國人が他行のむづかしく、日本支那人に對してこの三月にしかれし米國法律は我等に對し旅行上如何に不都合を與へしやを認め可申候御存じの如くピクトリヤは英領に御座候私共はピクトリヤより蒸氣船にて當シエトルに達せんと午後八時の出帆を期して宿をいで波止場に達し候然るところオイ、ドッコヒ、日本人ならば稅關吏の保證に添へ醫師の健康保證を要すとの事船は出てんとす如斯事をなすいとまは非るべし何故さきに告げざるやとミス、シエッターが申せしも上の布告でどうとも出來ぬとの事、これにてまづ其日は出立見合せ翌日ミス、シエフ、ターと同道して關吏に至りそれより醫師に此醫師如何にするやシエフターが兼て何事も明亮に答ふるべしと數へ呉れやがて參れば何のその唯一見して Well, you can pass. それのみシエフターと小女はさんくに歸路笑ひ申しシエフターは是の顏を見ては誰も健康をうたがはざる也と申候まづそれにて事すみ扱乘船して爾シエター行をよろこび申居しところこのシエターとピクトリヤとの間にポートターオンデムと申ところ有之こゝが英領米領の境界にて又米領に入らんには再び米吏の諾諾を要すポートターオレギムに達せし時は午後の一時にて其眞夜に二哩もあると云ふプラッフの上にある役所にいたらざるを得ずとの事也シエフターは驚けり然しデーヨー、アントン、津田、よりあづかり來りし小女のためには何事も勇氣を以てこゝろよく爲せり恰も母の如く否小女は父の如く思へり夜一時に起きショーロトを上衣の上にまとはせ手をひきて活潑に步行するところそれより吏の前に出で、官吏の今夜は上吏が居らぬ故上吏の見聞を經ずしては其日本の娘は乘船ならぬ一人を通せばこゝにある（小女の外に三人の日本男子附添ひ二人の日本婦人あり此者はエンプレス、オフ、インデヤにて下等客に小女見受けたり下等に日本婦人殆と十名男子數十名を見たり）他の人は如何せんと云ひしに對へてこの夜一時頃にこゝにいかんせん明朝はシエーターにてミス、エス、ウリープス迎ひに來て居るなるべしこゝも又夫れく都合せり桑港に行かればならぬ夜一時頃に船より此二哩もある小山に來らせしかして官吏は眠り居り夫に旅行者を不意にさゝめるとは奇怪どうしてもならぬと討論するところなど勇氣勃々とても男子に對して弱々しき夫人のなし得らるゝ所に非ずわたくしは實にスッロング、マインデードなるミス、セフターと來りし事をよろこぶ、遂に然らば明朝上官に通知し電信をかくべしそれ迄は上陸せすして船中に居らんと約して去れり（他の日本人は如何せしや茫然たるのみ一夜を役所ベンチの上に過せしがアワレ・・・・）而して翌朝三時半シエターに達しミスパッターのみ上陸してこの事をミス、エス、ウリープスに告げ吾等は次の港タコーマー迄行き又タコーマーより其儘かへしてシエターに着せしは午前十時頃と覺へ候（三時半には上官吏未た出張せざるべし十時頃なれば既に出張して事を定め得る後なれば也）それより上陸してわたくしはミス、エス、ウリープスと共にこの家にシエフター、ポーターはホテルへ而して二人午後訪問してすぐ歸路をとり其儘別れ申し・・・・・・・・・・・・

（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

萬國宗教大會今やチカゴ府に開かる、天下の名士世界の傑士一堂に相會し社交上道義上宗教上の最大問題を掲げ以て大に宇内的輿論を喚起せんとす而て現時世界の大勢果て佛か耶か其那邊に向て走せつゝあるやと知らんと欲せば之を各國人士の代表論に問はざるべからず本書は萬國宗教大會議の寫眞鏡たり蘇言機たり之を讀めば以て蹈内偏僻の妄見を蟬脱して正大堂々の思想を躍然たらん

松山緑陰著
萬國宗教大會議
中西牛郎閲

豫約價卅貳錢、郵稅四錢、郵券代用一割增、紙數三百頁以上、印刷部數三千部限「豫約申込期限十月卅日限、期限内と雖も豫定部數に滿れば申込を謝絶す、來る十一月製本出來の上代金送附の事●本書は大會議事錄、名家の著書、海外新聞雜誌、特別通信等に依て編述し尤も明細精確を期す其他委曲の事は本誌號を見よ

●發行所 京都寺町五條上ル各種書林 興文堂

福羽美静君序 鈴木弘恭君著
再版
文法口授
和紙日本綴 定價金拾錢 郵便稅金貳錢

目次
(一)文と云ものゝ譯(二)章句段節の譯(三)文を作るに容易なる譯(四)多く文を作るを善とする譯(五)文を作る工夫の事(六)草稿の譯幷に書方(七)文を練磨する事(八)文を作るに病癖ある事(九)佳篇を作る法(十)文を培養する法(十一)種々の文例

發賣 神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

裏錦

第十二號 十月十五日發行

要目

●胎教論
●女子のほまれ
●連枝の樹
●たはれうた十二首
●秋花に對する感
●橘の妙を評す
●天賦才能の發達
●異教の頑蒙を嘆ず
●舊約婦人評論(アダムの妻、エツ)
●日本固有の美術(第一書法)
●家庭經濟の修業
●れひたちの記
幼年篇(第八回遊戲、第八回戀愛に似たる者、第十回我父の人と爲り)
●花賣(中)
●僞皇子(宮殿の場)
●豐御食炊屋姬、寶皇女

錦子
小衣子
松井玄鶴翁遺稿
德子
山田郁子
貞子
黄離女
矜旅生
さくらどの翁
賀古殘夢譯
トウストイ著
林丘子譯
如雲生稿
プレキン著
殘月庵譯
洛洒五子

定價一册六錢市外郵稅一册に付一錢

發行所 東京神田區駿河臺北甲賀町十三番地 尚絅社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

花の家胡蝶大人著

素人料理 **年中總菜の仕方** 實價金廿五錢 郵税金六錢

此『年中總菜の仕方』は、既に本紙三百五拾號に於て公評せられたる如く、文章も凡ならず、卷中の料理法極めて多くして、皆な實際に適し、最とも有益なるものと信ずれば、今回弊社に於て之を廣く取次販賣す、世の主婦たる人の必携すべき書なり、

近藤嘉三先生著

言語作法 **貴女の心得** 實價金拾四錢 郵税金四錢

本書の目次は、淑女の心得、夫の心得、化粧の要訣、談話の心得、訪問の心得、賓客接遇の心得、室内粧飾法、和歌の書方、香道の心得、茶道の心得、新式和洋挿花法、家庭衞生法、其他數件、一々圖書を以て平易に說明せしものにして貴女の友たるを得るものなり、

巖本善治君著

女學叢書 **木村鐙子小傳** 實價金八錢 郵税金二錢

木村鐙子女史は我女子敎育界の寒梅にして、女子が如何に堅信熱愛にして、若かも貞節賢德なる婦人たりし乎、請ふ此書を一讀其爲人を知り玉へ、

巖本善治君著

敎育主義 **吾黨の女子敎育** 實價金八錢 郵税金二錢

此書は通篇、拾五章に分ち、紙數二百〇七頁、記述する處我國女子敎育に關する編者が積年幾多の意見と、其主義を代言するものにして、殊に明治女學校の敎育精神、期圖を知らんと欲する士女は本書に就き閲讀あらんことを、

巖本善治君講述

女子敎育 **敎育學講義** 實價金八錢 郵税金貳錢

此書は君が、明治女學校高等科女生に口述せられたる講義中を要望者に頒たん爲めに廉價を以て發行す、

竹越竹代女史著

賢婦傳記 **婦人立志篇** 實價金貳拾錢 郵税金貳錢

見よ婦人の地位の如何に制せられて、其達し得る程度を如何に限られて、而して其達し得る程度の制限なきを、此書は女子の讀物として甚だ有益なるものにして、廣く之を世間に紹介す

船越鼎太郎君著

産婦小供 **攝生法** 實價金十錢 郵税金二錢

此書は姙娠婦人適當なる攝生法を、平易、簡便に示したるものにして、産婦必讀の書なり、

横山雅男君著

實跡統計 **婚姻論** 實價金拾六錢 郵税金四錢

此書は理論を以て是非を極論したる者に非ずして、著者は統計集誌に於て知名の人なり、專ら古今東西の比例統計を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

採り以て、其國の寒暖生活文化の高低に因て、結婚に早晩あると、其實例照々乎として頗る我國男女の風習に付警矯せしものなり、

博愛
慈善
看護婦美談
久野久香君著

實價金廿五錢
郵稅金　六　錢

博愛なる婦人の多涙一生を捧げて看護婦となる、而して記述の事柄二百數十頁を以て成る、

蔦廼舍主人撰
修正
百首
修正小倉百首

實價　金四錢
郵稅　金二錢

我國婦女の毎春弄牌小倉式紙なと弄ひ之れを暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は烏保不爲在原業平小野小町一流の人物を深く慨して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其集二百八十有餘集にして一の戀歌なし、仁齋是を　天皇に奉りたるものなりと云ふ。

小野鷲堂先生書
女子
消息
文のかきふり
上下二冊

實價金三拾六錢
郵稅金六錢

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來茲に注意する人々稀にして、眞字がちにこち〳〵しき漢語をまじえ、おのこどもの書きなすものと、別ちなきやうに見ゆるそうたてき。そも〳〵文は、その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげ〳〵しき文字のみ流行すなれば、いかてと思ひたちて、連綿墨つぎの法を考え『御候』字なとのおき所をたゞし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者誌す

同
高等
女子文かきふり

實價金三拾二錢
郵稅金　六　錢

この書も亦女子が書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の模範とすべきものなり。

同
再板
かな習字帖
三冊

實價各金拾錢宛
郵稅各金二錢宛

此の書は、各女學校の習字科に撰定せられ、高等中學二年以上に相當する行、草躰の習字帖なり、自修の稽古本に適當のものなり。

炭谷小梅女史著
藝妓
內幕
藝者と手掛

實價　金　三　錢
郵稅　金　二　錢

此書は炭谷小梅女史が、藝者と手掛の內幕を遺憾なく披露せられたるものにして、市下諸新聞は之を轉載或は細評せられたるものなり。

櫻井成明君著
貞節
龜鑑
貞婦お石

實價　金　壹　錢
郵稅　金　貳　錢

貞婦お石が實に婦人の龜鑑たるべき貧困の中に舅姑の病氣を看護し、不良の夫が亡命して行方知られすなりたる后は、倘更に田を鋤き畑を耕し、其苦節言語に堪ゆ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

櫻井明石君譯

希臘孝子 腓立比（ピリッピ）物語

大形洋綴美製
正價金卅五錢
郵税　金六錢

今を距ると六十年希臘國の勇士等。土耳其國の厭制に堪へず義兵を擧げたりし時、一方の將となりたる、メサロスなるもの戰敗れて、其妻と共に奴隷に賣られて、遠くアラビヤのバグダッドへ連れ行れて、苦役に服しなり、其子腓立比其時六才なりしが、或人に養育せられ、十七才に至りたる時、土國より遣はされたる管領の危難を救ひしが縁となりて、管領腓立比の至孝勇猛に感じて莫大の金を與へ、船を用意させて兩親を贖ひに出しやり、船中にて腓立比は船長の危難を二度助け、又船長の助言により腓立比基督信徒の身を以て、土國マホメット宗徒の假裝を爲して、單身にて隊商の群に加はり愈アラビヤの沙漠の乘り込み、沙漠中にて其基督教徒なると露見し殆ど生命も危かりしを、隊商の頭領其至孝と堅信とに感じて、大に腓立比を省みるに至り、後又隊商等がアラビヤのベドウィン族に剽掠せられ囚虜となりし時、腓立比も、亦囚人となり、爾後幾多の艱難變遷ありて、終に酋長腓立比の志に感じアラビヤの健兒に護送させてバグダッドへゆるし遣り、バグダッドにて非常の困難に遇ひ大失望したりしも、圖らぬ助を得て遂に兩親を奴隷苦役の中より十二年目に芽出度救ひ出しぬ。

右は譯者が三年の辛苦を經てものせし、悲むべく喜ぶべく驚くべく憎むべく、境遇の變化、涙なくして讀をへられず。譯者或人に與ふるの書は「實に小弟初めより此種の文學にならはず殆んど産の劬勞をいたし、或は車上に集林の戯曲を繙きて、兩眼のいたくかすむをも顧みず、枕邊に曲亭の集を備へ指頭の寒に感覺なきに至り云々。」請ふ一本を購ひ欺かさるを知れ。

發行所　東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店
賣捌所　同出雲町　警醒社書店

皇后陛下御覽　三島通良君

四版

はゝのつとめ

和本上製（上下二冊揃）定價金五拾錢郵税金六錢

醫科大學産科●婦人科●小兒科○華族女學校●長崎●福岡●島根●秋田其他數縣尋常師範學校教科書及參考書

右は第三版賣切の所今般第四版、印刷成りたれは一層直段を引下候間續々御購讀あらんとを

東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

英語熟達ノ基督信者婦人アリ通辨、教員、入用ノ方ハ御來談アレ

東京京橋區船松町十四番地　名出

迎接日　巖本善治

毎週金曜日午後三時より下六番町六番地にて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隔週評論發行

第拾四號目錄

時事
付夫子安心論
條約改正論(第三)
先づ緊急切要の事務あり
相馬事件
注意すべき一宗派

講壇
天地管見
(道士迂濶◎基督は神に非ずと云ふ◎無學者達觀す◎善に必愛必罰なし◎幕府年代の偉人)

文學評論
万物の聲と詩人(透谷)

史傳
西行法師(南城)

書架
荻生徂徠◎基督傳記◎破太鼓◎高橋五郎

徒然草
にほはぬ花(花園女史)

雜録
雜感
(批評家の責◎人物評の困難◎不完全なる類推法◎心靈過度の時期◎人物の比較點◎孔老と基督◎有限と無限◎義の傳道)

海外風信
衛生と宗教◎嚴重なる禁酒制度◎奴隷貿易の起源◎ヘンリック、イブセン

本誌代價		
六冊	前金三十五錢	府外三十八錢
十三冊(半年)同	七十三錢	同 七十八錢
廿六冊(一年)同	一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊金六錢	郵税	金五厘

發賣所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

皇后陛下 明宮殿下 御覽の書

再版 小公子

(リツトル○ロード○フオントルロイ)

子供のよみ本◆若松しづ子譯

森田思軒居士の批評

余紛々たる世間の譯文に於て平生甚だ許可少なし獨り若松賤子の「小公子」に驚嘆す今「罪と罰」を得て又之を二にせむとす二書が皆な其文を俗話躰に取りしは極て智なり苟も俗話を以て文となせは其詞を採り其の方式を求むるの廣くして且つ便なる車夫厨婢の偶語も直ちに我が文の資とならざる無し若し專ら雅言を用ひは「小公子」のフォントルロイが始て老侯爵に謁する處本書の醉漢が醉言する處の如き余は恐る縱ひ賤子不知庵が如意の筆を以てするも寫して今の文の半ばにも至るを得ることは能はざるを余は是に於て益々世間の譯者の弱處が其詞に貧なるの一事に根する者多きを知る。

實價金貳拾八錢 郵税金八錢

發賣所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

取次所 東京◉東海堂、巖々堂、東京堂、武藏屋、警醒社、京都◉便利堂、東枝律、大阪◉岡島、梅原、神戸◉福音社、熊本◉草野、函館◉福音舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學界

第九號要目

嫖蕩兒を愍みて 天知
柳里恭を喚ぶ 花染衣子
袈裟御 秋骨
山家漫言 むせい
なりひさご 古藤庵
茶のけふり(續) 殘花
月はおのれ 同
大名小路をよこぎりて 安東桂州
夏の瀧 魚ぬの
面かげ 透谷
眠れる蝶

時文

マコーレー○荻生徂徠○空想窟○今年の傑作○鳥留好語○歸峅庵○心の闇○枕頭山水○李斯王安石○片々

附錄

女歌仙家集 大和田

本誌代價

六冊 前金三十五錢 府外三十八錢
十三冊(半年)同 七十三錢 同 七十八錢
廿六冊(一年)同 一圓三十錢 同 一圓四十三錢
一冊金六錢 郵稅金五厘

發行所 東京神田區表神保町六番地 文學界雜誌社

本社移轉

東京王子村下十條八百五十一番地
本社及編輯局
東京神田區表神保町六番地
女學雜誌社書店

第三回共立女學校同窓會
本月廿一日午前十時ゟ於當校開會本校出身ノ諸姉ハ來ル十八日迄ニ出席ノ有無通知ヲ乞フ會費廿錢
明治廿六年十月
横濱山手共立女學校同窓會委員

女學雜誌代價

六冊 前金三拾五錢 府外三十八錢
十三冊(半年)同 七拾三錢 同 七十八錢
廿六冊(一年)同 一圓三十錢 同 一圓四十三錢
一冊金六錢 郵稅金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
○十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるものにて一切無料とす但紙面半頁分の廣告を載する毎に右記雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増と定む。

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年十月十三日印刷
明治廿六年十月十四日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
印刷所 仝 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工塲(電話十九番)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY